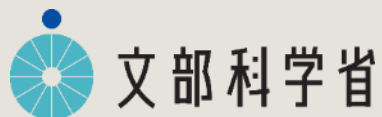


# 学習者用デジタル教科書 研修事例集

～行動変容を引き出す研修のアイデア～

---

令和7年度 学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業



## 目次

本書の見方 p.2

---

研修事例 p.4

---

- |    |          |    |
|----|----------|----|
| 1. | 埼玉県教育局   | 5  |
| 2. | 福井県教育庁   | 11 |
| 3. | 奈良県教育委員会 | 19 |
| 4. | 熊本県教育庁   | 27 |
| 5. | 鹿児島県教育庁  | 34 |

Appendix p.41

---

## はじめに

### ～授業や教科書の在り方を再考する機会に～

全国どの地域も端末環境の更新の時期となり、NEXT GIGAへと移行しています。デジタル学習基盤としての活用や研修も進みつつあります。

そのような中、中央教育審議会の議論でも、自己調整の力を子供一人一人に培うことや、教科書のあり方も「教科書を教える」から「教科書で教える」という方向性が示されています。今まで以上に、教師の役割が問われることになっていくものと推測します。

そして、これまでの実証研究事業により、デジタル教科書の使用頻度が高いほどデジタル教科書の使用感を肯定的に捉えていることが明らかになっています。一方で、課題として、デジタル教科書をどのように授業で活用すれば良いか分からない、教員研修をどのように行えば良いか分からないという話もお聞きしています。

「教科書の発行に関する臨時措置法」第2条によると、教科書とは、「(略)教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材として、教授の用に供せられる児童又は生徒用図書(略)」と示されています。一方で、デジタル教科書は、これまでの教師が教えるためだけの教科書から児童生徒が学ぶための教科書へと移行していると言えます。特に、児童生徒個々の実態に合わせて、教科書をカスタマイズできることは、子供差配の学びに大変有効に働いています。

そのような中、読むだけの教科書から、書く教科書、聞く教科書、共有する教科書へと、さらに、これまでの一斉授業が主だった使い方から、児童生徒自身で学習が最適となるよう自己調整するような使い方へと、教科書の位置付けを見直し、授業の在り方を変革していく必要があります。

そこで、「学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業」の「研修事例集」及び「授業改善事例集」を、ここに公開することにしました。デジタル教科書の活用の仕方にとどまらず、授業や教科書の在り方について、再考する機会にいただければ幸いです。

令和7年度  
学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業

主査

中川一史

(放送大学・教授)



# 本書の見方

令和7年度「学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業」では、全国から5つの都道府県教育委員会を選定し、同教育委員会が実施するデジタル教科書等を活用した指導に関する研修の改善に取り組みました。この取組は、有識者(p.43参照)の指導助言の下で、1つの教育委員会につき2回の研修をターゲットに行いました。

本書では、各教育委員会が実施した各回の研修の内容と成果を「研修事例」として、下図のとおり、3~4ページにとりまとめています。各事例の1ページ目では研修の全体像を、2ページ目以降では研修の各活動の詳細やポイントを紹介しています。

なお、本書はあくまで研修の概要を端的にまとめたものであり、更なる詳細については成果報告書もあわせて参照ください。

成果報告書(研修に関する調査研究): [https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761_3.pdf)

## 研修の概要 (各事例1ページ目)

## 研修の各取組の詳細 (各事例2~4ページ目)

研修事例 1-1 埼玉県教育局

### 教科書発行者を交え、機能や活用方法の理解を深化

詳しく報告書で読む (p.17~24)

研修前

- 教員はデジタル教科書の必要性や具体的な活用方法・場面を理解しておらず、活用に至っていない。

研修後

- 研修を受講した全ての教員が、研修で取り上げられた具体的な機能への活用を意欲を示した。
- 受講生の75%が、実際に研修後の授業でデジタル教科書を活用ようになった。

#### 研修の概要

研修のねらい

- 受講者が、デジタル教科書の機能を把握し、活用方法を検討できるよう、教科書発行者による機能紹介を行う。
- 具体的な活用方法を検討し実践に移れるよう、デジタル教科書の導入が進んでいる外国語の授業を対象に、活用できそうな場面に關してグループで協議を行う。

基本情報	対象者	実施方式
研修のねらい	対象 北本市の小学校、中学校教員15名 (外国語担当)	実施方式 対面
有識者の講義	全体	多様化する子供たちに対応する「個別最適な学び」の必要性を訴求し、その実現のために必要な数々の応用について説明。(講義内容はp.9を参照。)
教科書発行者の講義	全体	多様化する子供たちに対応する「個別最適な学び」の必要性を訴求し、その実現のために必要な数々の応用について説明。(講義内容はp.9を参照。)
ワークショップ	グループ	各々が記入した付箋を、横断紙上で外国語の4技能ごとに整理しながら、グループで活用方法を協議。
有識者の講義	全体	グループで整理した横断紙を示しながら、協議内容を全体に発表。

研修事例 1-1 埼玉県教育局

### 教科書発行者を交え、機能や活用方法の理解を深化

詳しく報告書で読む (p.19)

取組のねらい

- デジタル教科書の機能を把握し、自身の授業におけるデジタル教科書の活用イメージをもつことができる。

#### 取組内容

##### 教科書発行者による講義の流れ

- 小学校教諭・中学校外国語教諭で別の教室に分かれた後、教科書発行者より、デジタル教科書の機能に関する講義を実施。
- 紙の教科書のQRコードや指導者用デジタル教科書と比較し、学習者用デジタル教科書の特徴を説明。
- 会場の大規模提示装置に学習者用デジタル教科書を投影しながら機能を説明。
- 少人数で講義を行うことで、講義の意中でも、受講者が気軽に教科書発行者に質問できる雰囲気は醸成。
- 講義の随所に受講者同士で交流する機会や、受講者が自身の端末でデジタル教科書の機能やコンテンツを試す時間を設ける。
- この時間で、活用経験のある受講者が多くの受講者に機能を教えたり、経験者でも使えそう「子供同士で確認を出し合える」など活用アイデアが出てきたりするように促す。

##### 教科書発行者から直接学ぶ、各機能と活用の考え方

- 教科書発行者から「デジタル教科書とは何か」という前提に加え、各機能がどのような活用を想定しているのかを体系的に解説することにより、受講者は断片的な機能理解に留まらず、全体像と意図を踏まえた上で活用を検討することができます。
- 各機能を熟知している教科書発行者1名に対し、少人数の教員で実際にデジタル教科書を使用しながら質問ができるため、デジタル教科書に関する疑問が解消しやすい環境が実現します。(埼玉県教育局 元 指導主事)

#### 取組結果

##### 受講者アンケートの結果

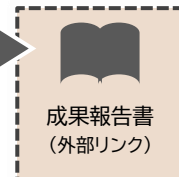
活用に対する意欲の変化 [N=15]

意欲	割合	人数
とても高まった	40%	6人
やや高まった	60%	9人

教科書発行者の講義でデジタル教科書の機能を理解し、全ての回答者が活用への意欲を高めたと考えられる。

研修後の取組の方向性(自由回答回答から抜粋)

- 単語テストや自己評価シートなど、デジタル教科書にある機能を用いて手帳を削減したい。
- URLやスタンプを貼る機能、しおり機能を用いて、子供の手帳を書きたい。
- まずは授業内で、英文を読んだり、音読練習をしたりする個別学習の時間を設け、習熟度に応じた学習ができるようにしたい。
- 多くの受講者が教科書発行者の紹介した具体的な機能について言及していた。



- 1 研修のねらいや各活動の流れ等、研修の全体像を紹介
- 2 各事例に関する成果報告書のQRコードから、詳細な内容の確認が可能

- 3 研修の各活動を詳述するページを設け、取組の実施方法やその成果について紹介
- 4 各活動を再現する際のポイントについて、有識者や教育委員会の担当者の声から可視化

## 研修事例一覧

本書に掲載する研修事例は以下のとおりです。なお、No.間に「S」マークがついているものは、研修間に関連性があることを表しています。

県	No.	掲載事例	対象	研修の概要	実施方式	掲載ページ
埼玉県	1-1	教科書発行者を交え、機能や活用方法の理解を深化	教員	① デジタル教科書活用の意義や事例について、 <b>有識者の講義</b> を実施。 ② <b>教科書発行者</b> から、デジタル教科書の機能について説明。 ③ グループごとに、 <b>デジタル教科書を操作しながら活用を検討</b> 。	参集	p.5
	1-2	単元計画の作成を通じた活用意欲の向上	教員	① 各受講者がデジタル教科書を活用した授業実践結果を持ち寄り、 <b>グループで協議</b> 。 ② 受講者ごとに <b>単元計画を作成</b> した上で、グループで協議。	参集	p.8
福井県	2-1	模擬授業を通じて、学習者の目線から活用の効果を実感	教員	① 指導主事が教員役、受講者が学習者役となり、デジタル教科書を活用した <b>模擬授業</b> を体験。 ② デジタル教科書活用に係る課題や授業づくりについて、 <b>グループで協議</b> 。	参集	p.11
	S 2-2	各自の実践を持ち寄り、目的達成に向けた活用を検討	教員	① 研修までに、各受講者が <b>デジタル教科書を活用した授業を実践し、報告書に整理</b> 。 ② 各自の実践共有をしながら、目指す学び姿の実現に向けた活用を <b>グループで協議</b> 。 ③ 受講者の感じた疑問点や課題をもとに、 <b>パネルディスカッション</b> を実施	参集	p.15
奈良県	3-1	学習者主体の学びを起点にデジタル教科書の活用意義と活用の姿を捉える	教員	① デジタル教科書の意義や活用方法とその効果について、 <b>有識者の講義</b> を実施。 ② デジタル教科書を操作しながら <b>外国語の4技能ごとの活用をグループで検討</b> 。 ③ 外国語におけるデジタル学習基盤の活用の重要性や事例を <b>指導主事が紹介</b> 。	参集	p.19
	3-2	校種や立場を超えた多様な視点から、デジタル教科書の活用を考える	教員 指導主事	① 学習指導要領の要点やそれに向けたデジタル教科書の活用を <b>指導主事が紹介</b> 。 ② デジタル教科書の意義やこれからの授業の在り方について、 <b>有識者の講義</b> を実施。 ③ デジタル教科書を操作しながら <b>算数・数学の4領域ごとの活用をグループで検討</b> 。	参集	p.23
熊本県	4-1	学習者の立場を体験し、実感を伴って効果を理解	教員 指導主事	① デジタル教科書の意義や効果的な活用方法、活用促進に向けた段階について、 <b>有識者の講義</b> を実施。 ② 受講者が学習者の立場から効果を体感できるよう有識者が <b>模擬授業</b> を実施。	ハイブリッド	p.27
	4-2	模擬授業を行い、指導助言のポイントを共有	指導主事	① 指導主事に必要な視点やデジタル教科書の事例について、 <b>有識者の講義</b> を実施 ② 国語、算数・数学、理科、社会、外国語ごとに、 <b>グループで授業案を検討</b> 。 ③ ②で検討した授業案をもとに、受講者が <b>グループを超えて模擬授業を実施し合う</b> 。	参集	p.30
鹿児島県	5-1	活用段階に沿った指導助言方法の検討	指導主事	① デジタル教科書活用の意義や事例、指導助言方法について、 <b>有識者の講義</b> を実施。 ② デジタル教科書のサンプル版を実際に操作しながら、活用できそうな機能や授業場面、具体的な指導助言の方法について、 <b>グループで協議</b> 。	ハイブリッド	p.34
	5-2	先進的な授業づくりのねらいや工夫に迫る	教員 指導主事	① 県内の教員から、デジタル教科書を活用した授業づくりで意識していることや工夫点、実際の活用例について <b>実践発表</b> 。 ② ①のポイントについて、「学習者主体の授業」をキーワードに <b>有識者の講義</b> を実施。	ハイブリッド	p.38

## 研修事例

---

# 教科書発行者を交え、機能や活用方法の理解を深化



詳しく  
報告書で読む  
(p.17~24)

## 研修前



- ・ 教員はデジタル教科書の必要性や具体的な活用方法・場面を理解しておらず、活用に至っていない。



- ・ 研修を受講した全ての教員が、研修で取り上げられた具体的な機能への活用の意欲を示した。
- ・ 受講者の75%が、実際に研修後の授業でデジタル教科書を活用するようになった。

## 研修後



## 研修の概要

### 基本情報



- ✓ 受講者が、デジタル教科書の機能を把握し、活用方法を検討できるよう、教科書発行者による機能紹介を行う。
- ✓ 具体的な活用方法を検討し実践に移れるよう、デジタル教科書の導入が進んでいる外国語の授業を対象に、活用できそうな場面に関してグループで協議を行う。

### 対象者

教員

北本市の小学校、中学校教員15名  
(外国語科担当)

指導主事

-

### 実施方式

参集

オンライン

ハイブリッド

### 研修の流れ

#### レクチャー



#### 有識者の講義

全体

- 多様化する子供たちに対応する「個別最適な学び」の必要性を訴求し、その実現のために必要な教師の役割に関して説明。(講義内容はp.9を参照。)
- デジタル教科書を活用した授業実践例を紹介。

#### 【準備物】

- ・ 講義動画・資料

#### レクチャー



#### 教科書発行者の講義

全体

- 受講者の校種別に教室を分け、デジタル教科書を大型提示装置に投影しながら機能を説明。
- 講義を受けながら、受講者自身の端末でもデジタル教科書を操作。

➡ 詳細は p.6

#### 【準備物】

- ・ 操作用端末 (受講者が持参)

#### ワークショップ



#### グループ協議

個別

- 実際にデジタル教科書に触れながら機能を確認し、外国語の授業で活用できそうな機能や授業場面を付箋に書き出す。

グループ

- 各自が記入した付箋を、模造紙上で外国語の4技能ごとに整理しながら、グループで活用方法を議論。

全体

- グループで整理した模造紙を示しながら、協議内容を全体に発表。

➡ 詳細は p.7

#### 【準備物】

- ・ 操作用端末 (受講者が持参)
- ・ 模造紙、付箋、マーカー

#### レクチャー



#### 有識者の講義

全体

- 有識者が本研修内容を振り返りながら、外国語の授業づくりにおいて必要な教科固有の観点の説明を実施。(講義内容はp.9を参照。)

#### 【準備物】

- ・ 講義資料

## 教科書発行者を交え、機能や活用方法の理解を深化



詳しく  
報告書で読む  
(p.19)

レクチャー



20分

教科書発行者の講義

取組のねらい

- デジタル教科書の機能を把握し、自身の授業におけるデジタル教科書の活用イメージをもつことができる。

取組内容

### ■ 教科書発行者による講義の流れ

- 小学校教諭・中学校外国語教諭で別の教室に分かれた後に、教科書発行者より、デジタル教科書の機能に関する講義を実施。
  - 紙の教科書のQRコンテンツや指導者用デジタル教科書と比較し、学習者用デジタル教科書の特徴を説明。
  - 会場の大型提示装置に学習者用デジタル教科書を投影しながら機能を説明。
- 少人数で講義を行うことで、講義の最中でも、受講者が気軽に教科書発行者に質問できる雰囲気醸成。
- 講義の随所に受講者同士で交流する機会や、受講者が自身の端末でデジタル教科書の機能やコンテンツを試す時間を設ける。この時間で、活用経験のある受講者が近く受講者に機能を教えたり、「家庭学習でも使えそう」「子供同士で問題を出し合える」など活用アイデアが出てきたりするように促す。

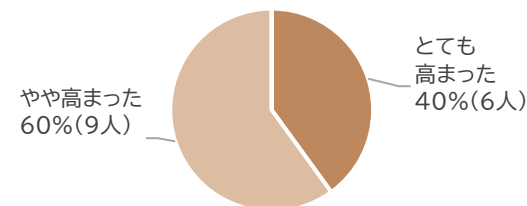


▲教科書発行者の説明を受けながら、デジタル教科書进行操作し、受講者同士で話す様子

取組結果

### ■ 受講者アンケートの結果

活用に対する意欲の変化 [N=15]



- 教科書発行者の講義でデジタル教科書の機能を理解し、全ての回答者が活用への意欲を高めたと考えられる。

研修後の取組の方向性(自由記述回答から抜粋)

- 単語テストや自己評価シートなど、デジタル教科書にある機能を用いて手間を削減したい。
- URLやスタンプを貼る機能、しおり機能を用いて、子供の手間を省きたい。
- まずは授業内で、英文を読んだり、音読練習をしたりする個別学習の時間を設け、習熟度に応じた学習ができるようにしたい。
- 多くの受講者が教科書発行者の紹介した具体的な機能について言及していた。



ポイント解説

### 教科書発行者から直接学ぶ、各機能と活用の考え方

- 教科書発行者から「デジタル教科書とは何か」という前提に加え、各機能がどのような活用を意図しているのかを体系的に解説することにより、受講者は断片的な機能理解に留まらず、全体像と意図を踏まえた上で活用を検討することができます。
- 各機能を熟知している教科書発行者1名に対し、少人数の教員で実際にデジタル教科書进行操作しながら質問ができるため、デジタル教科書に関する疑問が解消しやすい環境が実現します。  
(埼玉県教育局 秋元 指導主事)

# 教科書発行者を交え、機能や活用方法の理解を深化



詳しく  
報告書で読む  
(p.20)

ワークショップ



40分

グループ協議

取組のねらい

- デジタル教科書の具体的な活用場面を理解し、実際に授業で活用するイメージをもつことができる。

取組内容

## ■ 活用方法の検討の主な流れ

- 教科書発行者からの講義を踏まえて、「外国語の4技能」を軸に、授業で活用できそうなデジタル教科書の機能や授業場面を付箋に書き出す(校種別に4~5人のグループを編成)。
- グループで、各自が記入した付箋を模造紙上で4技能ごとに整理しながら、活用方法を共有・議論。
- ワーク中も教科書発行者に質問や意見交換が可能。
- 各グループが整理した模造紙を示しながら、協議内容を全体に発表。

聞くこと

本文のマスク機能を活用し、ディクテーションに取り組む。

読むこと

単語を練習できるアプリの機能を家庭学習で活用する。

話すこと

スピーチの動画を視聴し、子供がスピーチをする際の参考にする。

書くこと

スピーチの原稿を書くときに使える教科書の文にマーカーをつける。

▲4技能別に活用場面を整理(イメージ)

取組結果

## ■ 受講者アンケートの結果

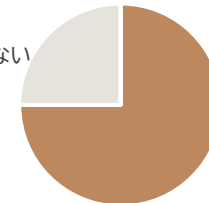
研修で満足した内容(自由記述回答から抜粋)

- グループワークで、他校の先生のデジタル教科書の具体的な活用方法を意見交換できて満足した。
- デジタル教科書の知らなかった機能や、使用していなかった機能の活用方法がわかった。
- 今回新たに知った授業づくりの工夫を、2学期の授業ですぐに活かせると思った。

## ■ 追跡アンケートの結果 ※研修から約4か月後に実施

研修内容の活用 [N=12]

研修内容を  
活かしていない  
25%(3人)



研修内容を  
活かしている  
75%(9人)

- 75%の回答者が、研修後の授業に研修内容を活かすことができたと回答。グループ協議で具体的な活用場面を検討したことで、自身の授業実践にデジタル教科書を取り入れることができたと考えられる。



ポイント解説

## 教科書発行者も意見交換に加わり、グループ協議を活性化

- ワーク中も教科書発行者に質問や意見交換をしやすい環境にすることで、受講者は浮かんだアイデアをデジタル教科書で実現できるかをすぐに確かめられ、積極的なアウトプットに繋がることができます。
- 教科書発行者を交えてデジタル教科書の活用アイデアを出し合うことで、受講者個人では出てこないような応用的な活用方法を見つけることができます。(埼玉県教育局 秋元 指導主事)



▲デジタル教科書进行操作しながら、活用方法を議論する様子

# 単元計画の作成を通じた、活用意欲の向上



詳しく  
報告書で読む  
(p.25~33)

## 研修前



- 教師はデジタル教科書で子供が主体的に学ぶ場面を設けられるようになってきたが、未だ一斉指導の思考も根強い。
- 単元全体を見据えた授業づくり・デジタル教科書活用の視点が不足している。



## 研修後



- 受講者は、個別最適な学びの実現のためにデジタル教科書が有用であることを理解した。
- 研修内で作成した単元計画を基に、デジタル教科書を活用した授業を行う教員が見られた。

## 研修の概要

### 基本情報



- 受講者が、段階的にデジタル教科書の活用への理解を深められるよう、本研修を昨年度からの継続研修と位置付け、同じ対象に研修を実施する。
- 各受講者の多様な活用例を参考に単元検討がなされるよう、事前課題として、各受講者はデジタル教科書を用いた実践結果を整理して持ち寄る。

対象者	教員	三芳町の小学校、中学校教員16名 (外国語科担当)	
	指導主事	-	
実施方式	参集	オンライン	ハイブリッド

### 研修の流れ

<p><b>ワークショップ</b> 30分</p> <p>実践共有</p>	<p>グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度研修以降の受講者の実践結果を、各々がワークシートにまとめ、それを基にグループで協議。各実践内容に対して感想の発表や質問などを行い、理解を深める。</li> </ul>	<p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> </ul>
<p><b>レクチャー</b> 30分</p> <p>代表教員の発表・有識者の講義</p>	<p>全体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先進的な活用を行う受講者1名が授業実践の様子を撮影し、活用のポイントを字幕等で補足する動画を作成。研修では、同受講者の解説を交えながら実践動画を視聴。</li> <li>視聴後、実践動画を踏まえてどのように受講者が授業改善に繋がればよいかについて有識者からコメント。</li> </ul> <p>→ 詳細は p.9</p>	<p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動画・講義資料</li> </ul>
<p><b>ワークショップ</b> 60分</p> <p>グループ協議</p>	<p>グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研修運営者側が指定した単元と単元目標に即して、「単元活用シート」上で各時間の内容を検討。各時間の中で、どのようにデジタル教科書の活用ができるかを協議。</li> </ul> <p>全体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループでの検討結果について、「単元活用シート」を投影しながら全体に発表。</li> </ul> <p>→ 詳細は p.10</p>	<p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>操作端末 (受講者が持参)</li> <li>単元活用シート</li> </ul>
<p><b>レクチャー</b> 25分</p> <p>有識者の講義</p>	<p>全体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有識者が本研修内容を振り返りながら、今後の更なる活用促進に向けたポイントを説明。</li> </ul> <p>→ 詳細は p.9</p>	<p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講義資料</li> </ul>

# 単元計画の作成を通じた、活用意欲の向上



詳しく  
報告書で読む  
(p.27~28)

レクチャー



55分

代表教員の発表・  
有識者の講義

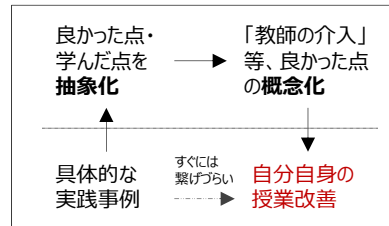
## 取組のねらい

- ・ 研修で意見交換した内容を踏まえて、自身の授業改善に繋げることができる。

## 取組内容

### ■ ワークショップ前の講義:実践事例から自身の授業改善へ

- ・ 事前課題として取り組んだ受講者同士の実践結果の共有や、代表教員による実践発表を踏まえて、受講者がどのように自身の授業改善に繋がれば良いか、右図を示しながら考え方を紹介。
- ・ 「具体的な実践事例から、活用のポイントを抽象化・概念化」する重要性を説明し、実践事例の共有と後続のワークショップを接続。



▲講義で提示された図のイメージ

### ■ ワークショップ後の講義:授業スタイルと教師の役割の転換

- ・ 「語彙・文法の説明」→「練習」→「言語活動」という積み上げ式の学習と、単元や授業を貫くタスクを与え、学習者がそのタスクを通して実際に言語を使いながら習得していくタスク型の学習の違いを紹介。(タスク型の例:単元末のプレゼンに向けて必要な表現を習得)
- ・ タスク型の学習において、デジタル教科書は学習者自身が必要な言葉を自分のペースで取り入れるためのツールとなることを解説し、授業観の転換の必要性を訴求。
- ・ 子供たちが主体的に学習を進める上での教師の役割を、右図のステップに沿って説明。



▲学習を徐々に児童生徒に委ねていくことの重要性を説明

## 取組結果

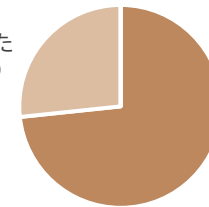
### ■ 受講者アンケートの結果

研修で理解した内容 (自由記述回答から抜粋)

- ・ デジタル教科書の実践事例や講義から、自分の授業でも取り入れられそうな内容を知ることができた。
- ・ 有識者の講義を聞いて、「指導の個別化」と「学習の個性化」のためにICTを活用することが、子供たちの「自己調整学習」に繋がることを理解した。
- ・ 「機能を知る」「操作をなぞる」「限定して委ねる」「ほとんど委ねる」のステップに沿って、デジタル教科書を活用していくと良いことを理解した。

活用に対する意欲の変化 [N=15]

やや高まった  
27%(4人)



とても  
高まった  
73%(11人)

- ▶ 有識者の講義でデジタル教科書活用のポイントを理解し、全ての回答者が活用への意欲を高めたと考えられる。



ポイント解説

### 受講者の検討内容からポイントを抽象化・概念化

- ・ 研修でデジタル教科書の活用事例を受講者に共有するとき、事例の中で良かった点はどこであるかを具体的に考え(抽象化「授業中の教師の〇〇という声掛け」等)、さらにその良かった点を他の授業にも適用できる言葉に置き直す(概念化「教師の適切な介入の重要性」等)ことで、受講者は事例を通じて、自身の授業改善につなげやすくなります。(放送大学 小林 准教授)

# 単元計画の作成を通じた、活用意欲の向上



詳しく  
報告書で読む  
(p.28)

ワークショップ



60分

グループ協議

## 取組のねらい

- 単元ゴールや各授業のめあてに向けて、子供自身がデジタル教科書を含めた学び方を選択できるような授業の計画を立てることができる。

## 取組内容

### ■ ワークショップの流れ

- グループごとに、「デジタル教科書単元活用シート(右図)」を用いて、デジタル教科書の活用を組み込んだ単元計画を検討することを説明。
  - グループは、校種ごとに3~5人で編成し、デジタル教科書を積極的に活用している受講者をグループに1名ずつ配置し、議論をリードする役割を担当させた。
  - 単元及び目標(①)は予め指定することで、デジタル教科書の活用という本質的な議論に時間を割けるようにする。
- 指定された単元目標の達成に向け、グループで単元計画(②)を作成。
- 個別最適な学び/協働的な学びの視点から、どのようにデジタル教科書の活用ができるか(③)を検討。単元内の各時間における子供たちの学びの姿を想定しながら協議。
- 「デジタル教科書単元活用シート」をスクリーンに投影しながら、グループでの検討結果を、全体に向けて発表。

デジタル教科書単元活用シート 学校名・名前					
1	単元名 How can we save animals?				
2	単元目標 絶滅のおそれがある動物の現状を知り、それを減らすために、絶滅危惧種について調べたり、守るために大切なこと、自分たちができることについてまとめたレポートを作成。				
3	単元の計画 1 ALTのプレゼンテーション 単元について理解する 2 本文理解 + 自分の考え 3 本文理解 + 自分の考え 4 本文理解 + 自分の考え 5 本文理解 + 自分の考え 6 レポート内容作り 7 グループ発表 8 全体で共有				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>個別最適な学び</th> <th>協働的な学び</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>新出単語・本文の内容理解</li> <li>個別で時間を取り、デジタル教科書を活用してそれぞれ学習を行う。</li> <li>本文の理解・自分の考えの整理</li> <li>デジタル教科書を使い、わからないところにチェックをして読む。また、発展的な課題として印象に残ったところや自分のレポートに必要なところに線をひいたり、自分のコメントを入れる。</li> <li>発展的な学習および学習支援</li> <li>早く終わってしまった子への次の手立てや、課題で行き詰った生徒への手立てを子供が取りに行けるようにする</li> <li>レポート内容の調べ作業</li> <li>レポート作成時の単語調べ</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>内容の確認(ペア)</li> <li>一定時間後、ペアで内容確認</li> <li>4人グループでの作業</li> <li>個人作業中にならないところは聞きやすいよう協働的な学びの隊形を作る</li> <li>考えの共有(ICTツール)</li> <li>自分の考えをまとめたものをオンラインで提出する。お互いの考えを見られるようにする。</li> <li>グループ発表</li> <li>レポートのたたき台ができたところでグループで共有し、お互いアイデアを行う。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>		個別最適な学び	協働的な学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出単語・本文の内容理解</li> <li>個別で時間を取り、デジタル教科書を活用してそれぞれ学習を行う。</li> <li>本文の理解・自分の考えの整理</li> <li>デジタル教科書を使い、わからないところにチェックをして読む。また、発展的な課題として印象に残ったところや自分のレポートに必要なところに線をひいたり、自分のコメントを入れる。</li> <li>発展的な学習および学習支援</li> <li>早く終わってしまった子への次の手立てや、課題で行き詰った生徒への手立てを子供が取りに行けるようにする</li> <li>レポート内容の調べ作業</li> <li>レポート作成時の単語調べ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容の確認(ペア)</li> <li>一定時間後、ペアで内容確認</li> <li>4人グループでの作業</li> <li>個人作業中にならないところは聞きやすいよう協働的な学びの隊形を作る</li> <li>考えの共有(ICTツール)</li> <li>自分の考えをまとめたものをオンラインで提出する。お互いの考えを見られるようにする。</li> <li>グループ発表</li> <li>レポートのたたき台ができたところでグループで共有し、お互いアイデアを行う。</li> </ul>
個別最適な学び	協働的な学び				
<ul style="list-style-type: none"> <li>新出単語・本文の内容理解</li> <li>個別で時間を取り、デジタル教科書を活用してそれぞれ学習を行う。</li> <li>本文の理解・自分の考えの整理</li> <li>デジタル教科書を使い、わからないところにチェックをして読む。また、発展的な課題として印象に残ったところや自分のレポートに必要なところに線をひいたり、自分のコメントを入れる。</li> <li>発展的な学習および学習支援</li> <li>早く終わってしまった子への次の手立てや、課題で行き詰った生徒への手立てを子供が取りに行けるようにする</li> <li>レポート内容の調べ作業</li> <li>レポート作成時の単語調べ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容の確認(ペア)</li> <li>一定時間後、ペアで内容確認</li> <li>4人グループでの作業</li> <li>個人作業中にならないところは聞きやすいよう協働的な学びの隊形を作る</li> <li>考えの共有(ICTツール)</li> <li>自分の考えをまとめたものをオンラインで提出する。お互いの考えを見られるようにする。</li> <li>グループ発表</li> <li>レポートのたたき台ができたところでグループで共有し、お互いアイデアを行う。</li> </ul>				

▲実際に用いられたワークシート  
赤字がデジタル教科書の活用場面

## 取組結果

### ■ 受講者アンケートの結果

研修で満足した内容(自由記述回答から抜粋)

- 参加者間でデジタル教科書の活用アイデアを共有しながら単元検討し、刺激を受けた。
- デジタル教科書を実際に使いながら単元計画を検討することができた。今回知ったことを、早速2学期の最初の授業から使えそうだったと思った。
- グループワークで作成した単元計画は、夏休み明けの授業で使えそうである。

### ■ 追跡アンケートの結果 ※研修から約4か月後に実施

研修後の授業実践の内容(自由記述回答から抜粋)

- 本文を読む際に、デジタル教科書を使って新出単語の意味や発音について生徒が調べている。
- リスニングやスピーキングの練習、単語練習ツール等を生徒が使用している。
- デジタル教科書のイラストを単元末の発表のスライドなどで活用している。
- 単元末の発表に向けた各時間の振り返りの記入や、動画撮影に学習支援ソフトを使用している。



ポイント解説

### 授業で活用した実体験に紐づけて単元計画を検討

- 研修間の継続性を持たせることで、実際に自身の授業でデジタル教科書を活用した状態で意見交換を行うことができます。受講者が授業内での活用方法に関して実体験に紐づいたアイデアを持ち寄ることで、「単元の学びの中で想定される授業内での子供たちの反応」など、具体的な議論を深めることができます。(西部教育事務所 山井 指導主事)

## 模擬授業を通じて、学習者の目線から活用の効果を実感



詳しく  
報告書で読む  
(p.38~44)

### 研修前



- 現場は多忙なため、デジタル教科書等の活用の効果を学ぶ余裕がなく、必要性を実感できないている。



### 研修後



- 模擬授業を通じて、全ての受講者が、デジタル教科書等の必要性や効果について実感を伴って理解することができた。
- 全ての受講者が、ICT活用の前提となる学習者主体の授業づくりの重要性を理解し、活用への意欲を高めた。

## 研修の概要

### 基本情報



- 各校において研修内容が再展開されるよう、主な研修対象を、学校で研究促進の中核を担う研究主任・視聴覚主任とする。
- 受講者が、活用の効果を実感するとともに、実際の授業における活用イメージを持てるよう、デジタル教科書等を活用した模擬授業を実施する。

対象者	<table border="1"> <tr> <td>教員</td> <td>越前町の小中学校の研究主任・視聴覚主任26名</td> </tr> <tr> <td>指導主事</td> <td>—</td> </tr> </table>	教員	越前町の小中学校の研究主任・視聴覚主任26名	指導主事	—
教員	越前町の小中学校の研究主任・視聴覚主任26名				
指導主事	—				
実施方式	<table border="1"> <tr> <td>参集</td> <td>オンライン</td> <td>ハイブリッド</td> </tr> </table>	参集	オンライン	ハイブリッド	
参集	オンライン	ハイブリッド			

### 研修の流れ

#### ワークショップ



40分

#### 模擬授業

#### 個別

- 小学校第4学年の算数「台形と平行四辺形」を題材に、指導主事が模擬授業を実施。各自が、学習者の立場で、実際にICTを活用しながら様々な図形の仲間分けについて検討。

#### 全体

- 各自が検討した仲間分けを全体に共有し、その考え方を予想。その後、それらの考え方をの授業展開にどのように繋げていくと良いかを全体で議論。

#### 【準備物】

- 操作端末（受講者が持参）
- 模擬授業用のデジタルのワークシート

➡ 詳細は p.12

#### レクチャー



50分

#### 有識者の講義

#### 全体

- デジタル教科書等の意義や必要性について、算数・数学における見方・考え方や育成すべき資質・能力と関連づけながら説明。
- 前段の内容を踏まえ、過年度事業の先行事例をもとに、教科のねらいに迫るデジタル教科書等の活用方法を解説。

#### 【準備物】

- 講義資料

➡ 詳細は p.13

#### ワークショップ



35分

#### グループ協議

#### グループ

- グループごとに、「研修以降のICTを活用した授業づくり」をテーマに意見交換し、その内容を、学習支援ソフトで作成した[情報交換用プラットフォーム](#)上に入力。
- 意見交換後、各自で本研修を振り返り、[情報交換用プラットフォーム](#)に記入。

#### 【準備物】

- 操作端末（受講者が持参）
- [情報交換用プラットフォーム](#)

➡ 詳細は p.14

# 模擬授業を通じて、学習者の目線から活用の効果を実感



詳しく  
報告書で読む  
(p.40)

ワークショップ

40分

模擬授業

取組のねらい

- 自身の実践に向けた活用イメージを持つことができる。

## 取組内容

### ① 問題提起

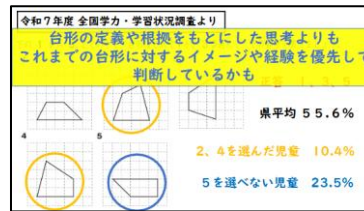
- 指導主事が、「全国学力・学習状況調査」の結果を紹介し、教科のねらいに迫るための授業設計の重要性について問題提起。
- ICTは、子供たちの多様な考えを可視化し、対話を引き出すことが可能なため、授業に取り入れることで、教科の本質に迫ることができることを説明。

### ② 模擬授業(題材:小学校4年算数「台形と平行四辺形」)

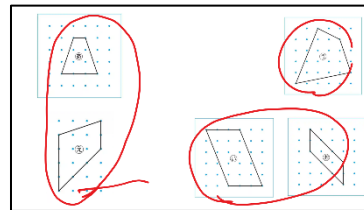
- 指導主事が授業者役、受講者が学習者役となり模擬授業を実施。
- 指導主事が用意した、デジタル教科書の図形をランダムに並べたデジタルのワークシートを使い、各受講者が自由に仲間分けを検討。

### ③ 全体で議論

- 指導主事が、いくつかの受講者の考えをピックアップし、全体に共有。それらが、どのような考え方で仲間分けされたかを予想するとともに、どのように授業に繋げていくと良いかを全体で議論。
- また、指導主事から、子供たちの学び合いを引き出すポイントとして、「課題提示の際に、着目すべき点や考え方も提示すると、正解か否かの構図となり対話生まれにくい。正解か否かではなく、子供たちの自由な発想を重視することで、子供たちの学び合いを引き出せる。」と説明。



▲全国学力・学習状況調査の結果をもとに問題提起



▲受講者がワークシートで試行錯誤

## 取組結果

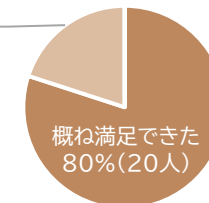
### ■ 受講者アンケートの結果

研修で満足した内容（自由記述回答から抜粋）

- ICTを使って子供の自由な発想を引き出し、そこから学びに繋げるような授業を目指したい。
- 他者の考えを瞬時に参照し、自分の学びを更新できることが、ICTの強みであると分かった。
- 模擬授業を通じて「正解か否かでは学び合いが生まれにくい。」という点に気付くことができた。
- 「他者との学び合いを通して理解を深めていくことを価値づけていく」という内容が重要だと感じた。

研修の満足度 [N=25]

どちらかといえば  
満足できた  
20%(5人)



- デジタル教科書等の効果を、模擬授業を通じて実際に体感できたことにより、全ての受講者から高い満足度を引き出したと考えられる。



ポイント解説

### デジタル教科書等のICTの活用による効果を実際に体感

- デジタル教科書等のICTの活用について、その必要性や効果を学び、実感する機会が少なく、最初の一歩を踏み出せていないことが多いです。そのため、納得感をもって活用を進めていくことができるよう、模擬授業を通して「学習者の目線」を体感してもらうことをねらいとしました。  
(福井県教育庁 村井 指導主事)

# 模擬授業を通じて、学習者の目線から活用の効果を実感



詳しく  
報告書で読む  
(p.40~41)

レクチャー



50分

有識者の講義

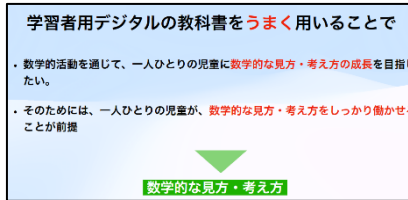
取組のねらい

- ・ 目指すべき授業の在り方や、その実現に向けたデジタル教科書等の必要性や効果を理解できる。

## 取組内容

### ■ 前半:「見方・考え方」を働かせるデジタル教科書等の活用

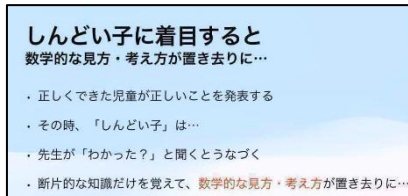
- ・ 授業づくりに当たり、教科の「見方・考え方」や育成したい資質・能力を明確にした上で、その達成に向けたデジタル教科書等の活用を検討することが重要であることを説明。
- ・ ICTの利点について「子供の考えを全体に共有することが容易である。そのため、例えば、学習が苦手な子供が、他者の考えを参考にしながら進めていくことも可能となる。」と説明。



▲目的に沿ってデジタル教科書を活用することの重要性を説明

### ■ 後半:好事例を基にデジタル教科書等の活用を解説

- ・ 過年度事業の先行事例を基に、授業場面に沿って活用方法を解説。その際、デジタル教科書等の活用方法だけでなく、各場面での子供の思考や言動に着目し、どう理解が促されたかを説明。



▲特に苦手な子供の思考や言動の変化にフォーカスしながら事例を解説

◀解説した事例▶

- ① 名寄市立名寄小学校(R5年度、算数)
- ② 甲州市立塩山南小学校(R6年度、算数)
- ③ 所沢市立山口中学校(R6年度、数学)



ポイント解説

### 学習者の思考・言動に着目して活用事例を紹介

- ・ 現場の教員にデジタル教科書等の活用事例を紹介する際に、活用の「理論」だけを話しても、その意義はなかなか伝わりません。
- ・ 活用場面における学習者の思考の変化や具体的な言動に焦点を当て、活用を通じて学びがどのように変容したかを示すことで、デジタル教科書等の効果をより実感を伴って理解してもらうことができます。(神戸大学 岡部 教授)

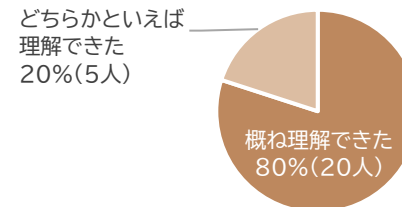
## 取組結果

### ■ 受講者アンケートの結果

研修で理解した内容(自由記述回答から抜粋)

- ・ ICTをうまく活用するためには、どんな授業にするかという授業づくりが大切だと感じた。「子供の視点」を大切にしながら授業を考えていきたい。
- ・ 算数の学習は、大人には簡単でも子供には実はすごく難しい部分が多いことに改めて気づいた。子供の助けになるよう吟味しながら、ICTを活用したい。
- ・ 様々な事例を子供の目線から紹介してもらい、具体的な活用のイメージを持つことができた。

研修の理解度 [N=25]



- ▶ 本研修の理解度を問う質問では、全ての受講者から肯定的な回答を得ており、デジタル教科書等の必要性や効果を理解し、具体的な活用イメージをもつことができたと考えられる。

## 模擬授業を通じて、学習者の目線から活用の効果を実感



詳しく  
報告書で読む  
(p.41)

ワークショップ



35分

グループ協議

取組のねらい

- ・ 研修での学びの受講者間での情報交換を通じて、実践への意欲を高める。

### 取組内容

#### ■ グループの編成方法

- ・ 各学校の活用状況に基づいた議論ができるよう、学校ごとに2~4人のグループを編成。

#### ■ グループ協議の主な流れ

- ・ 「2学期以降のICTを活用した授業づくり」をテーマに、グループごとに意見交換。その内容を、学習支援ソフトにより作成した情報交換用プラットフォームに入力。
- ・ グループでの意見交換後、「本研修で何を学び、今後どのように活かしていくか」をテーマに、各自で本研修の振り返りを同プラットフォームに入力。



▲指導主事も参加し、議論を活性化



▲プラットフォームに検討結果を入力

#### 「主任」を研修対象とするとともに、学校ごとにグループを分けて議論



ポイント解説

- ・ 学校間でデジタル教科書等の活用状況に差があったため、同じ課題認識のもとで意見交換できるよう学校ごとにグループを構成しました。このことにより、各校の活用実態に即した議論を引き出すことができました。
- ・ また、研修の対象者を、各校で研究促進の中核を担う「主任」としたことで、活用方法だけでなく校内での普及の方策にも議論が及んでいました。(越前町教育委員会 伊藤 指導主事)

### 取組結果

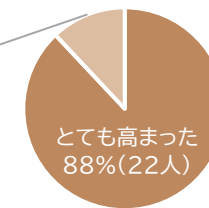
#### ■ 受講者アンケートの結果

今後の取組 (自由記述回答から抜粋)

- ・ 活用が目的化すると、結局は授業改善にならない。まずは問いや課題を重視した上で、思考や振り返りの場面でICTをうまく活用していきたい。
- ・ 学習者主体の授業づくりを目指すことが、結果としてICTの活用に繋がると考えている。
- ・ 今までは「ICTを活用しなければ」と無理矢理使っていたが、授業づくりを大切に、上手に使える場面を考えれば良いと分かった。

ICT活用に対する意欲の変化 [N=25]

やや高まった  
12%(3人)



- ICT活用に対する意欲の変化を問う質問では、全ての受講者が現状より高まったと回答。研修以降の取組の方向性を明確化し、実践への意欲を高めることができたと考えられる。

## 各自の実践を持ち寄り、目的達成に向けた活用を検討



詳しく  
報告書で読む  
(p.45~51)

### 研修前



- 活用自体が目的化し、「目指す子供の姿の達成に向けた活用」が意識されていないことがある。



- 全ての教員が、目的達成に向けたICT活用の重要性について理解することができた。
- 他校教員との実践共有や意見交換を通じて、9割以上の教員が意欲を高めることができた。

### 研修後



## 研修の概要

### 基本情報



- ✓ 研修前に、デジタル教科書等を実際に活用し、その成果や課題を捉えた状態で研修に臨めるよう、事前課題として「実践報告書」を作成して持ち寄る。
- ✓ デジタル教科書等の活用検討に際し、目的意識が明確になるよう、研修を通貫する視点として「目指す子供の学びの姿を問い直す」を設定する。

対象者	<table border="1"> <tr> <td>教員</td> <td>越前町の小中学校の研究主任13名</td> </tr> <tr> <td>指導主事</td> <td>-</td> </tr> </table>	教員	越前町の小中学校の研究主任13名	指導主事	-
教員	越前町の小中学校の研究主任13名				
指導主事	-				
実施方式	<table border="1"> <tr> <td>参集</td> <td>オンライン</td> <td>ハイブリッド</td> </tr> </table>	参集	オンライン	ハイブリッド	
参集	オンライン	ハイブリッド			

### 研修の流れ

#### 研修前の取組

##### 個別

- 各受講者が、第1回研修の内容を踏まえ、デジタル教科書等を活用した授業実践を行い、その内容を「実践報告書」に取りまとめる。
- 研修当日までに「実践報告書」を、[情報交換用プラットフォーム](#)上に提出。

##### 【準備物】

- 実践報告書

➡ 詳細は p.16

#### ワークショップ



#### グループ協議

##### グループ

- 各受講者が事前に作成してきた実践報告書をもとに、各自の実践内容を共有。
- その後、「デジタル教科書をはじめとするICTの活用を通じて目指す子供の学びの姿」をテーマにグループ内で意見交換。

##### 【準備物】

- 操作端末 (受講者が持参)

➡ 詳細は p.17

#### ワークショップ



#### パネルディスカッション

##### 全体

- 福井県及び越前町の指導主事、有識者、文部科学省の職員をパネラーとし、受講者と交流しながらパネルディスカッションを実施。
- パネルディスカッション後、各受講者で研修全体を振り返り、[情報交換用プラットフォーム](#)上に記入。

➡ 詳細は p.18

# 各自の実践を持ち寄り、目的達成に向けた活用を検討



詳しく  
報告書で読む  
(p.47)

## 研修前の取組

### 取組のねらい

- デジタル教科書等を活用した授業を実践し、活用による成果や課題を捉える。

### 取組内容

#### ■ 実践報告書の作成

- 研修前までに、各受講者にICTを活用した授業実践を促す。実践に当たっては、以下の①～③を意識して実践する。
- 取りまとめた実践報告書は、[情報交換用プラットフォーム](#)に提出。

#### ■ 実践報告書の構成

- 【現状の課題】と【目指す姿】
- 目指す姿の達成に向けた【取組の具体】と【ポイント】
- 取組の結果、見出された【子供の変容(成果)】や【課題】

**ICTを活用した授業づくり** 越前町立織田中学校

**【取組内容】** ロイノートを活用して、全員が参加し、考えを深め合える授業づくり

**【現状の課題】**  
ICTの活用は年々進んでいる。各教員のスキルが異なり、ICTの効果的な活用により、効果的な学びを推進する。指導員が観察を依頼、検討することで、より良い考えを導き出す方法を模索している。

**【目指す姿】**  
ICTの活用により、効果的な学びを推進する。指導員が観察を依頼、検討することで、より良い考えを導き出す方法を模索している。

**【取組の具体】**

**【取組の具体】**  
デジタル教科書の学習でロイノートを活用した授業を実施。図形の色や追加が容易にできる。また、筆跡比較を活用して、異なる考え方を共有できた。

**【生徒の姿】**  
文字を書いたり、図形に線を引いたりするのが苦手な生徒にとって、ICTを活用することによって、見やすく、筆跡比較もすぐに済ませてやり直しができるので、便利である。  
一人一人の考えが一目で見れる機会があり、比較もできるので生徒の自己肯定感が高まる。

**【課題】**  
どうしても画面を見ている時間が長くなり、距離が遠いように感じる。ICTを使う場面とそうでない場面の使い分けが必要。

**【ポイント】**  
振り回りを共有することで、ねらいに迫る考えや次第につながる考えを共有できる。

**ICTを活用した授業づくり** 越前町立糸生小学校

**【取組内容】** 4年 算数「変わり方」  
ICTを使って様々な考え方に触れ、問題解決の見通しを持つ

**【現状の課題】**  
理解度の差がある。  
自分の考えや根拠を言語化して伝えることが難しい。

**【目指す姿】**  
他者参照して、自分の考えを深める姿  
図や表、言葉などを使って自分なりの表現で考えを伝える姿

**【取組の具体】**

「図」が2次元の図形をなわて、そのように4角形を組んでいきます。  
この図にまわりの長さの関係を調べましょう。

**ポイント①**  
共同注釈  
まわりの長さはどこにあたるのか全員で確認し、解決の見通しを持たせる。

**ICTを活用した授業づくり** 越前町立糸生小学校

**【取組内容】** デジタル教科書  
ボタンで数値を変えると階級の図形が変わる  
児童の手描きの図、言葉で…  
ロイノートに表現させる。

**ポイント②**  
いくつかの解決法を提案する。  
児童は、自分だけの方法であれば解決できそうなものを選んで持ってくる。自分の考えをロイノートにまとめていく。

**ロイノートの資料欄に用意**  
選択した児童は、「使う」をクリックして自分のロイノートに貼り付けて考えていく

◀◀各校からの実践報告の例  
越前町立糸生小学校の  
実践(◀)の詳細は[こちら](#)  
の動画もご参照ください

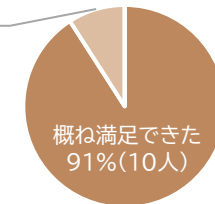
#### ■ 受講者アンケートの結果

研修で満足した内容（自由記述回答から抜粋）

- 他校の先生と実践共有し、ICT活用の良さや今後の課題を新たに見つけることができた。色々な先生の実践を参考にしながら試行錯誤していきたい。
- 他校の実践事例の共有を通じて、様々な学びのあり方を知ることができた。
- 様々な実践から子供の学習の可能性を広げることができると学んだ。これから、生徒の主体性や意欲を引き出す仕掛けや活用法を模索していきたい。

研修の満足度 [N=11]

どちらかといえば  
満足できた  
9%(1人)



- 左記観点に基づいてポイントが分かりやすく整理された実践報告書を共有したことにより、各受講者の活用の視点が広がり高い満足度を引き出したと考えられる。



ポイント解説

### 活用のねらいや成果・課題を意識して実践報告書を作成

- 実践報告書を作成する際、活用方法とあわせて現状の課題・目指す姿や成果・課題を省察することで、自身の実践のポイントを概念的に捉え直すことができます。(福井県教育庁 村井 指導主事)

## 各自の実践を持ち寄り、目的達成に向けた活用を検討



詳しく  
報告書で読む  
(p.48)

ワークショップ



50分

グループ協議

### 取組のねらい

- 実践共有を通じて、デジタル教科書等の活用に関する新たな視点を得ることができる。
- 「目指す子供の学びの姿の達成」に向けたデジタル教科書等の活用を具体化できる。

### 取組内容

#### ■ グループの編成方法

- 学校を超えた幅広い実践共有をねらい、異なる学校の受講者で4~5人でグループを編成。

#### ■ グループ協議の主な流れ

- 各受講者が作成した実践報告書により各自の実践内容を共有した後、以下の協議の視点に沿って意見交換。

#### ■ グループ協議の視点

テーマ: デジタル教科書をはじめとするICTの活用を通じて  
目指す子供の学びの姿を問い直す。

協議の視点①: ICT活用の成果や課題は何であったか。

協議の視点②: 今後に向けた疑問や困っていることは何か。

協議の視点③: 深い学びを確かなものにするための取組とは何か。



▲グループ協議の様子  
端末で実践を共有しながら議論

### 取組結果

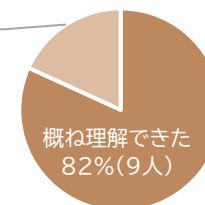
#### ■ 受講者アンケートの結果

研修で理解した内容 (自由記述回答から抜粋)

- 「使ってみることが目的」となっていた段階から、「目的に応じた使い方を考える」という次の段階に進まなくてはならないと理解した。
- 子供の学習の幅が広がり、様々な活用の仕方が見えてきたからこそ、授業をどうコーディネートデザインしていくかが重要となると感じた。
- ICT活用の視点から「目指す子供の学びの姿」を考え、深く学ぶことができたと感じている。

研修の理解度 [N=11]

どちらかといえば  
理解できた  
18%(2人)



- 本研修の理解度を問う質問では、全ての受講者から肯定的な回答を得ている。目的達成に向けたデジタル教科書等の活用イメージを具体化することができたと考えられる。



ポイント解説

#### “目指す子供の学びの姿”を前提に、ICT活用を検討

- 活用方法を紹介・検討する際、単に事例を提示するだけでは、活用“方法”に目が行き、活用自体が目的化してしまうことが多いです。
- 活用の前提となる「目指す姿は何か」を問い返ししながら、事例共有や活用検討を行うことにより、目的達成に向けた活用の意識や、各教員が大切にしている授業観を育てていくことが重要です。  
(福井県教育庁 村井 指導主事)

## 各自の実践を持ち寄り、目的達成に向けた活用を検討



詳しく  
報告書で読む  
(p.48)

ワークショップ



35分

パネル  
ディスカッション

取組のねらい

- ・ 目指す子供の学びの姿を再定義し、実践への意欲を高めることができる。

取組内容

### ■ パネルディスカッションの流れ

- ・ 福井県及び越前町の指導主事、有識者、文部科学省職員をパネラーとし、以下の流れで進行。
  - 前半：受講者から、グループ協議を通じて見えてきた課題や疑問を募り、その内容に対してパネラーから回答。
  - 後半：各パネラーが、研修全体を振り返りながら総括。

### ■ パネルディスカッション後の振り返り

- ・ 各受講者が、研修全体の振り返りを[情報交換用プラットフォーム](#)上に記入。テーマは以下の2点。
  - テーマ①：本研修で何を学び、今後どのように活かしていくか。
  - テーマ②：本研修を通して考えた目指す子供の学びの姿は何か。



▲受講者からパネラーに積極的に質問



▲パネラーが質問に答える様子

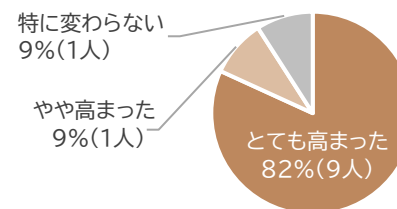
取組結果

### ■ 受講者アンケートの結果

今後の取組の方向性（自由記述回答から抜粋）

- ・ 新しいことに取り組むのは大変だが、このような研修があることで、そのメリットが具体的に見えたと感じた。今後は、ICTの良さを生かし、子供たちが友達の考えと比較したり深掘りしたりしながら主体的に話し合う姿を目指していきたい。
- ・ 目指す子供像は、「自分で学びを切り拓く子」。一人一台端末によって、調べる力が高まってきているので、学習活動の中で、より深く考え、判断・表現できるよう単元を構成したい。

ICT活用に対する意欲の変化 [N=11]



- ICT活用に対する意欲の変化を問う質問では、9割以上の受講者が現状より高まったと回答。研修を通じて、各受講者が自身の目指す学びやその達成に向けたICT活用を明確にし、活用への意欲を高めたと考えられる。



ポイント解説

### 受講者の疑問や課題を、インタラクティブに解消

- ・ 実際に行われている多くの研修は、指導主事から受講者へ一方的に伝達する形式となっており、受講者が、研修を通じて感じた疑問や課題を抱えたままとなってしまうことが多いです。
- ・ パネルディスカッションのように、講師と受講者がインタラクティブにやり取りができる機会を設けることで、受講者が、日頃の実践や研修を通じて感じた課題や疑問をその場で解消することができ、更なる理解の深まりに繋がります。
- ・ また、このように、現場の教員が、指導主事と直接やり取りをする機会を多く設けることにより、教員と指導主事の距離が縮まり、気軽に相談できる近い存在として研修後の指導助言にも繋げやすくなるでしょう。(神戸大学 岡部 教授)

# 学習者主体の学びを起点に デジタル教科書の活用意義と活用の姿を捉える



詳しく  
報告書で読む  
(p.56~62)

## 研修前



- デジタル教科書の意義や効果に対する理解をさらに深める必要がある。
- 学校間・教員間で活用状況に差が見られる。



- 全受講者が、自身の学級や現状の授業スタイルの課題を起点にしながら、デジタル教科書の活用意義について理解できた。
- 他校の教員の意見や県内の実践事例に触れることで、活用の幅を広げることができた。

## 研修後



## 研修の概要

### 基本情報



- デジタル教科書の意義を理解してもらうため、学習者主体の学びの必要性を踏まえ、その実現に向けた活用方法について理解を深めてもらう。
- 他の教員と交流する時間を設けたり、県内の事例を紹介したりして、活用の幅を広げてもらう。

対象者	<table border="1"> <tr> <td>教員</td> <td>各都市代表の教員(外国語科担当)32名</td> </tr> <tr> <td>指導主事</td> <td>-</td> </tr> </table>	教員	各都市代表の教員(外国語科担当)32名	指導主事	-
教員	各都市代表の教員(外国語科担当)32名				
指導主事	-				
実施方式	<table border="1"> <tr> <td>参集</td> <td>オンライン</td> <td>ハイブリッド</td> </tr> </table>	参集	オンライン	ハイブリッド	
参集	オンライン	ハイブリッド			

### 研修の流れ

#### レクチャー



60分

#### 有識者の講義

全体

- 文部科学省の調査結果を踏まえ、デジタル教科書の現状と教員が抱える課題について紹介。その上で、それらの課題と関連付けながら、学習者主体の学びの必要性について説明。

学習者主体の学びを実現する手段の1つとして、デジタル教科書の活用意義を示し、実践事例を紹介。

#### 【準備物】

- 講義資料

➡ 詳細は p.20

#### ワークショップ



30分

#### 活用方法の検討

個別

- これまでの実践や講義で学んだ内容を基に、デジタル教科書等の活用方法について、学習支援ソフトに書き出して共有。

グループ

- デジタル教科書を操作しながら外国語科における4技能(聞く・読む・話す・書く)の活用を検討。

全体

- 代表2グループが検討した内容を発表。

#### 【準備物】

- 操作用端末
- ホワイトボード、マーカー

➡ 詳細は p.21

#### レクチャー



20分

#### 県指導主事の講義

全体

- 奈良県教育委員会の指導主事から、外国語科におけるデジタル学習基盤の活用の重要性を解説。授業の流れに沿って活用場面を示し、県内の実践事例について紹介。

#### 【準備物】

- 講義資料

➡ 詳細は p.22



レクチャー



60分

有識者の講義

取組のねらい

- 学習者主体の学びの必要性を踏まえ、その実現に向けたデジタル教科書の活用方法について理解を深める。

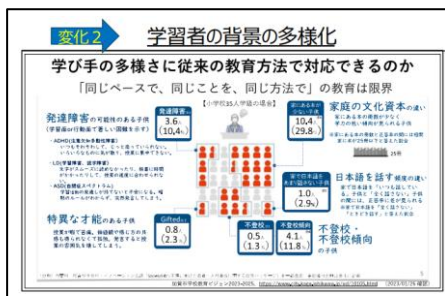
取組内容

## ■ 前半: デジタル教科書の現状と課題、学習者主体の学びの必要性の説明

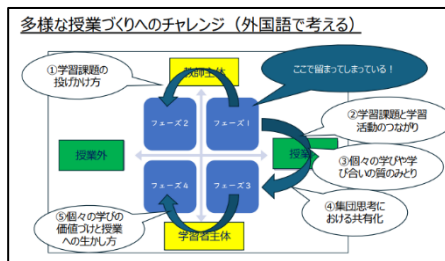
- 文部科学省によるデジタル教科書導入に当たった教員の課題感に関する調査結果を紹介。
- 時代の変化に伴い、学習環境が多様化していることを説明し(右上図)、従来の一斉一律型の学びだけではなく、学習者が自立的に学びを進めていく「学習者主体の学び」が求められていることを解説。

## ■ 後半: デジタル教科書の活用意義、実践事例の紹介

- デジタル教科書の具体的な機能や活用例を紹介しながら、「学習者主体の学び」にデジタル教科書がどのように寄与するかを説明。
- 受講者が段階的に活用を進められるよう「授業づくり」における教師主体から学習者主体の学びへ移行するための4つのフェーズのポイント(右下図)を説明。
- 「学習者の声」に着目しながら過年度事業の好事例動画を視聴。



▲多様化する学級の状況を紹介



▲フェーズごとにポイントを解説

取組結果

## ■ 受講者アンケートの結果

研修で満足した内容 (自由記述回答から抜粋)

- 学級の課題を紹介された際、自分自身の授業を振り返り、これまでの授業スタイルや課題を改めて見つめ直すことができた。
- 主体的・対話的で深い学びについて、これまでの実践を踏まえながら再考する機会となった。

研修で理解した内容 (自由記述回答から抜粋)

- デジタル教科書を活用することで、今後目指していく授業の方向性や学びの姿を具体的にイメージできた。
- デジタル教科書の活用が、学習者の学びに向かう姿勢を高める可能性があると感じた。
- 自身の学級や現状の授業スタイルの課題を起点として、学習者主体の学びの重要性を説いたことで、デジタル教科書の活用意義について理解を深めることができたと考えられる。



ポイント解説

## 目指す学びの姿を起点とした活用意義の解説

- 学習環境が多様化していることを示すことで、受講者が自身の学級や授業自らの学級・授業の状況とを無意識に比較し、求められる学びの姿と自身の実践との間にあるズレに気付き、自分事としての課題意識が生まれることが期待されます。
- デジタル教科書を「学習者主体の学びの実現のために活用する」という文脈で位置付けることで、活用意義を理解してもらいやすくなります。(放送大学 佐藤 客員教授)

# 学習者主体の学びを起点に デジタル教科書の活用意義と活用の姿を捉える



詳しく  
報告書で読む  
(p.59)

ワークショップ



30分

活用方法の検討

取組のねらい

- 他の教員との意見交換を通じて、自分一人では気付きにくい視点や工夫を取り入れ、授業における活用の幅を広げる。

取組内容

取組結果

## ■ グループ協議の流れ

### ◆ 個人ワーク

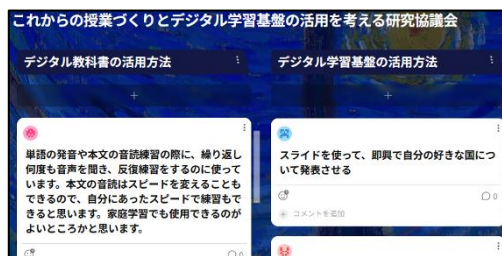
- 自身の実践や講義で学んだ内容を基に、デジタル教科書等の活用方法について個人で整理し、学習支援ソフトに書き出して共有(右上図)。

### ◆ グループワーク

- 1グループ約5名でグループに配置。
- グループごとに外国語科における4技能(聞く・読む・話す・書く)についての活用を検討。
- 実際にデジタル教科書を操作しながら、グループで話し合い、ホワイトボードに整理。

### ◆ 全体発表

- 2グループが代表して検討内容を発表し、全体で活用方法を共有。



▲学習支援ソフト上に個人の考えを書き出す様子



▲活用に関するアイデアを互いに出し合っている様子

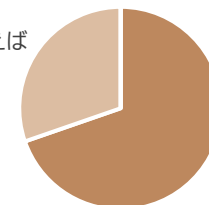
## ■ 受講者アンケートの結果

研修で満足した内容(自由記述回答から抜粋)

- 他の教員が現場で実践している具体的な活用方法について意見交換でき、有意義だった。
- 授業での活用方法だけでなく、実践上の課題や難しさについても共有でき、参考になった。
- 他者の実践や考え方に触れることで、デジタル教科書を今後どのように活用していくべきか、方向性を捉えることができた。

研修の理解度 [N=33]

どちらかといえば  
理解できた  
30%(10人)



概ね理解できた  
70%(23人)

- デジタル教科書を実際に操作しながら、他の教員と意見交換を行うことで、活用方法に対する理解が深まり、授業における活用の幅を広げることに繋がったと考えられる。



ポイント解説

## 既に活用が進んでいる教員を中心とした議論の進行

- 既にデジタル教科書の活用が進んでいる教員の実践知を起点に、他の教員の視点や経験が重なり合うことで、活用方法に対する理解が多面的に深まります。
- 議論を進める際には、具体的な困りごとに対して、他の教員が工夫や対応方法を共有する等、互いの実践を持ち寄るように促すことで、活用方法を広げていく対話が生まれます。

(放送大学 佐藤 客員教授)



レクチャー



20分

県指導主事の講義

取組のねらい

- デジタル学習基盤を活用した県内の授業モデルを知り、活用を身近なものに感じてもらう。

取組内容

取組結果

■ 県内事例に関する講義

- 奈良県教育委員会の指導主事から、外国語科におけるデジタル学習基盤の活用について説明。授業の「目的・場面・状況」を明確にして、学習者が学習のねらいを理解し、その達成を実感できる授業づくりの考え方を紹介。
- その後、授業全体の流れに沿って、どの場面で、どのようにデジタル学習基盤を活用しているかを具体的に示し、学習活動と活用方法の関係が分かるように、実践事例を紹介(右図)。

**デジタル学習基盤の活用について**

【現状と課題から】  
「(即興で)自分の考えや気持ちを英語で伝え合う活動」、「スピーチやプレゼンテーションなどまとまった内容を英語で発表する活動」をより充実させる。  
→「目的・場面・状況」の設定をし、伝える・わかる喜びを感じられる言語活動を!

**活用例**

①単語や教科書本文の音読活動

・自分のペースにあった速度や練習回数で音声に慣れ親しむ。  
・必要に応じて繰り返し音声を聞くことや速度を変えて音声を聞く。

②教科書本文への書き込み

・自分の考えや思いを伝えるために参考となるフレーズやその他必要な箇所へマーカーを引いておく。また、必要に応じてそのマーカーを消す。

③やりとり練習(AIの活用)

・関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。

④振り返り

・言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う際に、個人の学びの過程や他者の学びを確認する。

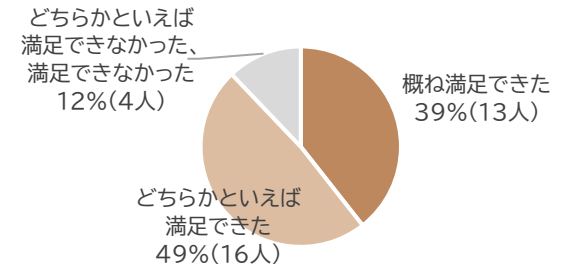
▲授業場面ごとに県内の活用事例を紹介

■ 受講者アンケートの結果

研修で満足した内容(自由記述回答から抜粋)

- 授業展開に応じたデジタル学習基盤の具体的な活用方法を知ることができ、参考になった。
- デジタル学習基盤を活用した授業の進行を、場面ごとにイメージすることができた。
- 県内の実践事例を通して、デジタル学習基盤を活用した授業の全体像を捉えることができた。

研修の満足度 [N=33]



- 県内の教員が実際に活用している事例を知ること、デジタル学習基盤の活用が受講者にとって身近なものとなり、自分事としてイメージできたと考えられる。



ポイント解説

県内実践事例を知り、活用を身近なものに

- 受講者と条件が近い学校・自治体の実践事例を紹介することで、デジタル学習基盤の活用が、特別な取組ではなく、日常の授業の中で実現可能な身近なものであることを示すことができます。
- 授業の流れに沿って活用場面を示すことで、受講者が自分の授業に置き換えて考えやすくなり、「自分の実践でも取り入れられそうだ」というイメージを持たせやすくなります。
- 県内の実践事例が共有される機会は限られているため、実際に授業を行っていた指導主事自身が紹介することは、受講者にとって刺激となり、今後の実践を考える上での大きな参考となります。  
(奈良県教育委員会 福呂 指導主事)

## 校種や立場を超えた多様な視点から、 デジタル教科書の活用を考える



詳しく  
報告書で読む  
(p.63~69)

### 研修前



- ・ 教員は、デジタル教科書の活用自体が目的化しており、活用意義が十分に理解されていない場面が一部見られる。
- ・ 指導主事は、学校現場における活用状況や課題の把握・共有が、なお十分とは言えない側面がある。



### 研修後



- ・ 9割以上の受講者が、デジタル教科書の活用の意義を理解することができた。
- ・ 意見交換を通じて、校種や立場を越えた多様な視点を獲得し、指導助言の方向性が見出せた。

## 研修の概要

### 基本情報



- ✓ デジタル教科書の活用イメージを具体化するために、教科の見方・考え方や授業観といった概念的な内容について、具体的な実践例を交えて紹介する。
- ✓ 校種や立場を越えた意見交流ができるよう、グループ協議において、小学校・中学校教員及び指導主事を混在させて配置する。

対象者	教員	各都市代表の教員(算数・数学科担当)44名
	指導主事	市町村教育委員会の指導主事7名
実施方式	参集	オンライン
		ハイブリッド

### 研修の流れ

#### レクチャー



#### 県指導主事の講義

- 全体
- 奈良県教育委員会の指導主事から、算数・数学科における学習指導要領の要点を説明。その後、デジタル教科書や学習支援ソフトを活用した具体的な実践事例を紹介。

#### 【準備物】

- ・ 講義資料

➡ 詳細は p.24

#### レクチャー



#### 有識者の講義

- 全体
- 過年度事業の事例動画を視聴し、効果的と考えられる活用ポイントを個人で整理した後、グループで意見交換。

学習スタイルを①視覚型②聴覚型③読み書き型④体験型の4つに分類したVARKモデルを用い、それぞれの特徴を説明しながら、活用方法を説明。

#### 【準備物】

- ・ 講義資料

実践例を交えながら、個別学習・協働学習・全体指導を往還しながら進めていく  
これからの授業の在り方を解説。

➡ 詳細は p.25

#### ワークショップ



#### 活用方法の検討

- グループ
- デジタル教科書を操作しながら算数・数学科における4領域(数と計算、図形、データの活用、測定関数)の活用を検討。

- 全体
- 代表2グループが検討した内容を発表。

#### 【準備物】

- ・ 操作端末
- ・ ホワイトボード、マーカー

➡ 詳細は p.26

# 校種や立場を超えた多様な視点から、 デジタル教科書の活用を考える



詳しく  
報告書で読む  
(p.65)

レクチャー



20分

県指導主事の講義

取組のねらい

- 学習指導要領の内容を達成するための手段として、デジタル教科書がどのように活用できるかを理解する。

## 取組内容

### ■ 県内事例に関する講義

- 奈良県教育委員会の指導主事から、実践事例に関わる指導上の要点を、学習指導要領を用いて解説。紹介された事例：中学校1年生「空間図形」における活用／中学校2年生「連立方程式」における活用
- 授業の流れに沿って、デジタル教科書及び学習支援ソフトの具体的な実践事例を紹介。

#### 中学1年生 空間図形

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 数学編

図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力を養うために、例えば、**立体の模型を作りながら考えたり、目的に応じてその一部を平面上に表す工夫をしたり、平面上の表現からその立体の性質を読み取ったりするなど、観察や操作、実験などの活動を通して図形を考察することを基本として学習を進めていく。**

空間図形の模型を手元に置かなくても、その見取図をかいたり、見取図から性質を読み取ったりすることによって、その空間図形のもつ性質を考察することができる。また、**立方体や正四面体の模型を作ろうとして展開図を用いることは、面と面や辺と辺の位置関係などに着目して、立体の各面の様子を分析的に観察することを必要とする。**

▲実践事例に関わる指導上の要点に線が引かれている様子

#### まとめ

- 導入  
興味を惹き、課題を共有する
- 展開(個人、グループ)  
試行錯誤とデータ収集
- 共有・比較  
多様な考え方の可視化
- 終末  
今日分かったことの言語化

▲授業場面ごとにデジタル教科書及び学習支援ソフトの活用方法を整理

## 取組結果

### ■ 受講者アンケートの結果

研修で満足した内容(自由記述回答から抜粋)

- 県内の身近な教員が活用を実践していると知ることによって、デジタル教科書を使うことへの心理的なハードルが下がった。(教員)

研修で理解した内容(自由記述回答から抜粋)

- 何のためにデジタル教科書を活用するか、という視点が大切であることが分かった。(指導主事)
- 「目的」「目標」「ゴール」を念頭に置きながら、指導助言していきたい。(指導主事)
- 実際の現場で、どのような流れで、どのように活用されているのかを具体的に理解できた。(教員)
- 学習指導要領と関連付けて、県内の具体的な実践事例を紹介したことで、デジタル教科書の活用が学習指導要領に示された目標の達成にどのように繋がるのかを具体的に理解できたと考えられる。



ポイント解説

### 学習指導要領に示された目標の達成を支える手段としてのデジタル教科書

- 実践事例のみを紹介するのではなく、あわせて、デジタル教科書の活用が学習指導要領に示された目標の達成にどのように結び付いているかを説明することで、受講者は授業のどの場面でも、どのような意図をもってデジタル教科書や学習支援ソフトが活用すると良いかを、具体的に理解することができます。
- 特に、指導主事も参加している研修であれば、学習指導要領に基づいて、学校現場における活用実態を捉えることができ、より実践的な指導助言に繋がるため、非常に有効です。  
(奈良県教育委員会 福呂 指導主事)



レクチャー



60分

有識者の講義

取組のねらい

- ・ 目指すべき授業の在り方から、デジタル教科書の活用の方向性を捉える。

取組内容

■ 序盤:実践動画を通じた活用ポイントの確認

- ・ 過年度事業の好事例動画を視聴し、効果的と考えられる活用ポイントを個人で整理した後、グループで意見交換。

■ 中盤:デジタル教科書導入の意義の説明

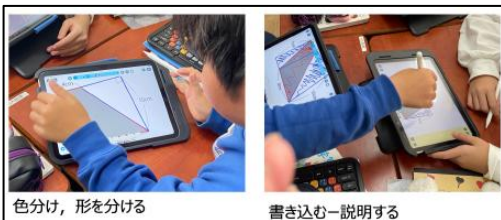
- ・ 学習者の多様化が進んでいる現状を踏まえ、学習者一人一人の特性に応じた指導・支援の重要性について説明。
- ・ 学習スタイルを①視覚型②聴覚型③読み書き型④体験型の4つに分類したVARKモデルを用い、それぞれの特徴を整理しながら、デジタル教科書や学習支援ソフトをどのように活用できるか説明。

■ 終盤:これからの授業の在り方の説明

- ・ デジタル教科書が、個別最適な学びの実現に有効であることを示した上で、その学びを協働的な学びへと繋げていくことの重要性について、具体的な活用場面を交えて説明。
- ・ 個別学習・協働学習・全体指導を往還しながら授業を構成していく考え方を実践事例(小学校5年生「平面図形の面積」)と共に説明し、その実現に向けた授業設計上のポイントを解説。



▲個に応じた学習スタイルを説明



▲「平面図形の面積」を題材とした活用の様子



ポイント解説

具体的な活用場面から  
活用意義を捉える

- ・ 授業の在り方といった概念的な考え方を説明する際には、具体的な教科・単元を題材とした活用場面と結び付けて示すことで、受講者は授業をイメージしながら理解を深め、活用の位置づけを明確に捉えられます。  
(放送大学 佐藤 客員教授)

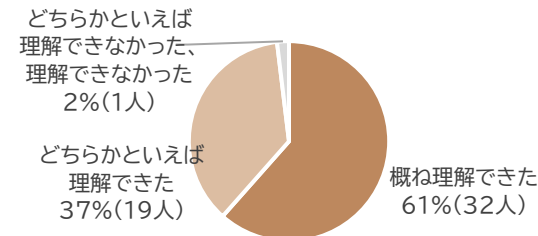
取組結果

■ 受講者アンケートの結果

研修で満足した内容 (自由記述回答から抜粋)

- ・ 機能の紹介にとどまらず、学習スタイルに応じた具体的な使分けを知ることができ、満足した。(教員・指導主事)
- ・ 学習内容や学習者の特性に応じて、活用方法を考える視点が得られた。(教員)
- ・ 目指すべき授業の在り方が実践事例と共に説明されたことで、具体的にイメージできた。(教員)

研修の理解度 [N=51]



- 概念的な内容を、具体的な実践事例と結び付けて説明したことで、目指すべき授業に近づくために、どのようにデジタル教科書を活用していくか理解できたと考えられる。

# 校種や立場を超えた多様な視点から、 デジタル教科書の活用を考える



詳しく  
報告書で読む  
(p.66)

ワークショップ

40分

活用方法の検討

取組のねらい

- 多様な視点からデジタル教科書の活用を捉え、自身の授業や指導助言に活かせる活用イメージを広げる。

## 取組内容

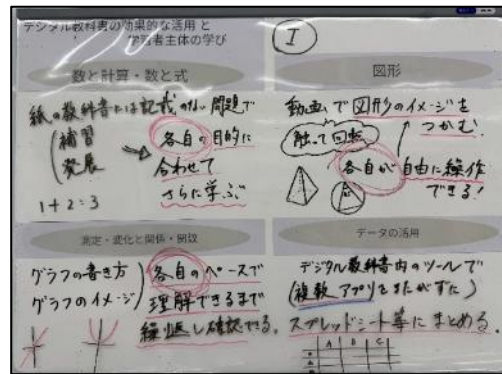
### ■ グループ協議の流れ

#### ◆ グループワーク 30分

- 1グループ3~5名で、小学校・中学校教員と指導主事を同一グループに配置。
- グループごとに算数・数学科における4領域(数と計算、図形、データの活用、関数)の活用を検討。
- 実際にデジタル教科書を操作しながら、グループで話し合い、ホワイトボード(右図)に整理。

#### ◆ 全体発表 10分

- 2グループが代表して検討内容を発表し、全体で活用方法を共有。



▲意見が整理されたホワイトボードの一例

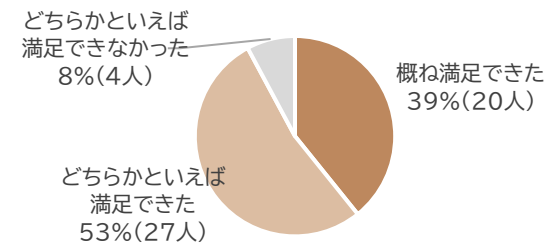
## 取組結果

### ■ 受講者アンケートの結果

研修で満足した内容(自由記述回答から抜粋)

- 校種や立場を越えて活用事例や課題を共有することで、新たな視点を獲得することができた。(教員・指導主事)
- 他校種の教員と同じグループで協議できたことで、現場の状況やどのような課題を抱えているかが分かり、有意義であった。(指導主事)

研修の満足度 [N=51]



- 校種や立場の異なる参加者による意見交流を通して、新たな視点や問いを獲得し、9割以上の受講者が満足したと考えられる。



ポイント解説

### 校種や立場を越えて多様な視点を共有する

- 校種や立場の異なる参加者を同一グループに配置することで、それぞれの役割に基づいた多様な視点が共有され、小学校・中学校の内容の共通点や相違点等、縦の繋がりとして捉え直し、活用をより広い視野で検討することに繋がります。
- 教員は、指導主事が議論に加わることで、「授業のねらいを達成するために、デジタル教科書をどう役立てるか」といった視点から、活用を捉えやすくなります。
- 指導主事は、学校現場におけるデジタル教科書の活用状況や課題について、十分に把握・共有できているとは言えない側面がありましたが、教員と共に検討することで、学校の実情に即した理解が深まり、今後の授業改善や指導の在り方を考えるための問いが生まれやすくなります。

(奈良県教育委員会 福呂 指導主事)

# 学習者の立場を体験し、実感を伴って効果を理解



詳しく  
報告書で読む  
(p.74~80)

## 研修前



- デジタル教科書の活用を進めるに当たり、何から着手し、どのような手順で取り組むべきかが分からない。
- 教員・指導主事共に、デジタル教科書の効果の理解が進んでいない。



## 研修後



- 9割以上の受講者が研修内容を理解し、自身の活用段階を把握し、活用に向けた取組の方向性を明確にできた。
- 模擬授業を通じて、学習者の立場を体験したことで、デジタル教科書活用の効果を実感している様子が見られた。

## 研修の概要

### 基本情報



- ✓ デジタル教科書の活用段階を理解し、今後の活用に向けた見通しをもたせる。
- ✓ 模擬授業で学習者の立場を体験することを通じて、デジタル教科書の効果を実感を持って理解してもらう。

対象者

教員

県内の教員、指導主事あわせて  
100名程度

指導主事

実施方式

参集

オンライン

ハイブリッド

### 研修の流れ

#### 研修前の取組

個別

- 事前アンケートにより、受講者のデジタル教科書活用の現状と課題感を把握。

レクチャー



50分

有識者の講義

全体

- 研修冒頭に、デジタル教科書を効果的に活用するまでには段階があることを示し、自身が現在のどの段階にいるのかを問いかけることで、受講者が自分の立ち位置を客観的に捉える機会を設定。

単元構想時に重視すべき視点としてPBL(Project-Based Learning)デザインを引用し、「どのように学ぶか(方法知)」「何を学ぶか(内容知)」を説明しながら、デジタル教科書を活用した授業づくりの考え方を解説。

【準備物】

- 講義資料

➡ 詳細は p.28

レクチャー



20分

模擬授業の体験

全体

- 有識者が授業者、受講者が学習者の立場となり、デジタル教科書を用いた模擬授業を体験。
- 模擬授業を通じて感じたデジタル教科書の効果や、ルーブリック(評価の観点)を子供たちに共有する適切なタイミングについて、グループで協議。
- 学習活動の意図やルーブリック(評価の観点)を子供たちと共有しながら授業を構成することにより、子供たちの主体性を引き出し、学習者主体の学びに繋がることを説明。

【準備物】

- 講義資料
- デジタル教科書(サンプル版)
- 操作用端末(受講者が持参)

➡ 詳細は p.29

# 学習者の立場を体験し、実感を伴って効果を理解



詳しく  
報告書で読む  
(p.76)

レクチャー



50分

有識者の講義

取組のねらい

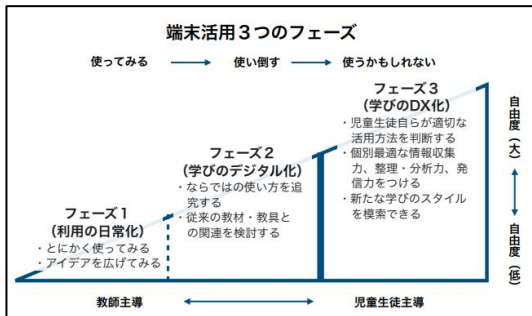
- デジタル教科書の活用段階を理解し、今後の活用に向けた見通しをもつことができる。

取組内容

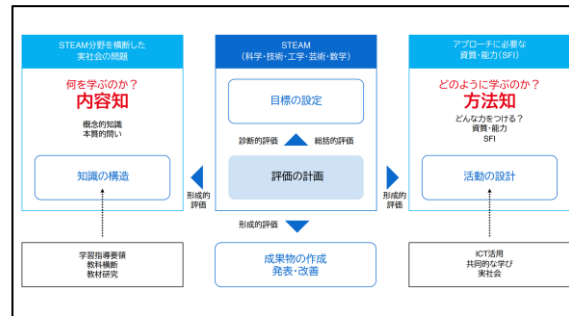
取組結果

## ■ デジタル教科書の活用段階や効果的な活用方法に関する講義

- 講義冒頭では、デジタル教科書を効果的に活用するまでには段階があることを説明する。その後、各受講者に対して「自身がどの段階にいるか」を問いかけることで、自身の立ち位置を意識させる。
- 「PBL(プロジェクト型学習)デザイン」(下左図)を基に、単元構想時における要点を解説。  
 端末活用のフェーズ1では、「どのように学ぶか(方法知)」に着目し、子供たちとともにデジタル教科書の活用に慣れていくことが重要であることを説明。  
 端末活用のフェーズ2以降、子供たちが活用に慣れ、学習手段として使いこなせるようになった段階では、「何を学ぶか(内容知)」に着目した活用へと発展させていくことが望ましいことを解説。



▲効果的な活用に至るまでの段階について説明



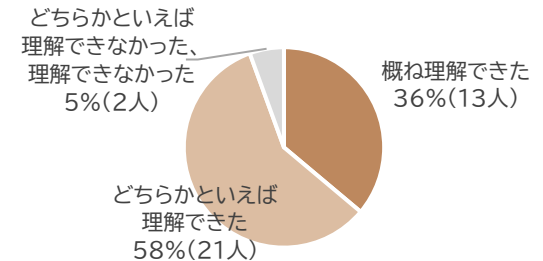
▲PBL(プロジェクト型学習)デザインを紹介

## ■ 受講者アンケートの結果

研修で理解した内容(自由記述回答から抜粋)

- デジタル教科書の活用段階の中で、自身が現在どの段階に位置しているのかを捉えることができ、今後どのように活用を進めていくべきかについて見通しをもつことができた。(教員)
- 「何を学ぶのか」とあわせて、「どのような方法で学ぶのか」を児童に意図的に伝えていくことの重要性を、改めて認識する機会となった。(教員)

研修の理解度 [N=48]



- ▶ 受講者が自身の立ち位置を理解した上で、今後どのような授業デザインを意識していくべきか、理解を深めることができたと考えられる。



ポイント解説

## まずは自分の活用段階を明確にしよう

- 講義冒頭で活用に向けた段階的な道筋を示し、自身の活用段階を把握してもらうことで、受講者が自分の状況を踏まえて、その後の講義内容を理解しやすくなります。  
(札幌国際大学 岩崎 教授)

# 学習者の立場を体験し、実感を伴って効果を理解



詳しく  
報告書で読む  
(p.77)

レクチャー



20分

## 模擬授業の体験

## 取組のねらい

- 模擬授業を通じて、学習者主体の学びに繋がる授業構成やデジタル教科書の活用方法を理解することができる。

## 取組内容

### ■ 模擬授業の体験

- 有識者が授業者、受講者が学習者の立場となり、理科におけるデジタル教科書を用いた模擬授業を体験し、学習活動において、デジタル教科書がどのように活用されているかを説明。
- 模擬授業後は、デジタル教科書が有効であると感じた点や、ルーブリック(本時の評価基準)を提示するタイミングについて、グループで意見交換。
- 学習活動の意図やルーブリック(本時の評価基準)等を授業の過程で子供たちと共有しながら、デジタル教科書を適切な場面で活用して授業を構成することにより、学習者主体の学びに繋がることを説明。

## 取組結果

### ■ 受講者アンケートの結果

研修で満足した内容(自由記述回答から抜粋)

- デジタル教科書を実際に使用し、学習者の立場を体験することで、子供の視点に立った授業の在り方を具体的にイメージすることができた。(教員)
- 自分の意見の根拠を明確にし、それを共有し合う活動において、デジタル教科書は有効であると実感した。(教員)

今後の取組の方向性(自由記述回答から抜粋)

- 教員が一方向的に教える授業ではなく、子供が自分のペースで学び、自ら学習を進めていけるような授業展開を実践していきたいと感じた。(教員)
- デジタル教科書の活用については、短期的な効果を求めるのではなく、根気強く継続して取り組むことで、最終的には紙の教科書かデジタルかを子供自身が主体的に選択できる力を育てていきたいと感じた。(指導主事)
- 模擬授業を通してデジタル教科書の効果を実感するとともに、学習者主体の授業づくりに向けた次のアクションへと意識を繋げる効果があったと考えられる。

### 模擬授業のテーマ

#### 【題材】

東京書籍株式会社 中学校2年生 理科  
「ホットケーキの秘密」

#### 【本時の課題】

- 蒸しパンを作る時に、ベーキングパウダーの有無で出来上がりに違いが出る理由は何かを説明する。

▲ 模擬授業の題材と本時の課題

中2：理科

めあて  
サイエンス系パティシエとして、お菓子作りの困った！を科学的に説明しながら美味しいものを作る。

問い  
蒸しパンを作るとき、ベーキングパウダーあり、なしで出来上がりに違いが出るはどうしてなのだろうか？

単元末：身近な事象を化学変化と関連付けて根拠を添えた説明ができる

めあての確認と本時の「問い」の投げかけ

(個) A：機能を選択し、自分のペースで表現方法を学ぶ  
説明の根拠となる部分に下線を引き、それを元に説明的文章をつくる

(ク) B：書き込み・振り返り+学習支援ソフトで共有  
グループで作った文章を共有し、互いに評価しあったあと、組み合わせたりしながら最適な文章をグループで1つ提出する。

生徒相互の評価  
→ たりないかどうかを判断するルーブリック  
教員による価値付け

▲ 学習活動における模擬授業の位置づけを説明

## 他教科においても、活用をイメージしやすくするために



ポイント解説

- 模擬授業で取り扱った教科に活用が限定されないために、模擬授業後に学習の進め方や活用の視点に着目して価値付ける等、教科の枠を超えて、活用のイメージの想像を促すことが重要です。  
(札幌国際大学 岩崎 教授)

## 模擬授業を行い、指導助言のポイントを共有



詳しく  
報告書で読む  
(p.81~87)

### 研修前



- 指導主事は、デジタル教科書の活用経験が十分でなく、指導助言の選択肢として、自信をもってデジタル教科書を提示できていない。



- 全受講者が、デジタル教科書の機能や活用の可能性を知り、教科特性に応じた具体的な活用方法を整理できた。
- 全受講者が、デジタル教科書活用に関する指導助言の自信を持つことができた。

### 研修後



## 研修の概要

### 基本情報



- 各教科の特性に即したデジタル教科書の活用方法が検討されるよう、受講者を専門教科ごとにグループ編成する。
- 活用イメージを具体化するために、グループごとに具体的な授業場面を想定した模擬授業を検討・実施する。

対象者	<div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">教員</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">指導主事</div>	- 県内の指導主事31名
実施方式	<div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">参集</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">オンライン</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">ハイブリッド</div>	

### 研修の流れ

#### レクチャー



30分

#### 有識者の講義

全体

- 指導主事が感じている課題を起点に、学校現場の状況に応じた指導助言を求められる指導主事の役割や、指導助言の幅を広げる重要性を再確認。  
「効果的な活用場面」と、「指導助言時に求められる『問い』や『価値付け』」との関連を解説。  
グループ協議模擬授業を検討する際に意識すべき授業のポイントを説明。

#### 【準備物】

- 講義資料

➡ 詳細は p.31

#### ワークショップ



50分

#### 授業案の検討

グループ

- 国語、算数・数学、理科、社会、外国語の主要5教科ごとに、3~4人のグループを編成し、デジタル教科書を操作しながら、授業案を検討。

#### 【準備物】

- デジタル教科書(サンプル版)
- 操作端末(受講者が持参)
- オンライン上のワークシート

➡ 詳細は p.32

#### ワークショップ



55分

#### 模擬授業の実施

全体

- ワールドカフェ形式で、受講者が授業者と学習者の役割を分担しながら、デジタル教科書を活用し、グループを超えた模擬授業を実施。  
模擬授業実施後は、授業者役と学習者役の間で授業の進め方やデジタル教科書の活用方法、指導助言の視点について、意見交換。

➡ 詳細は p.33

# 模擬授業を行い、指導助言のポイントを共有



詳しく  
報告書で読む  
(p.83)

レクチャー



30分

有識者の講義

## 取組のねらい

- 指導主事としての役割を再確認した上で、デジタル教科書の効果的な活用を学ぶ必要性を理解することができる。

## 取組内容

### ■ 序盤:指導主事に必要なマインドセット

- 「学校現場への働きかけの難しさ」といった課題を起点に、学校現場の状況に応じた助言助言を求められる指導主事の役割を再確認。あわせて、指導助言時の幅を広げるために、多様な考え方に触れ、自身の価値観や認識を更新していく必要性を強調。

### ■ 中盤:デジタル教科書の具体的な活用方法

- 「デジタル教科書の機能」や「過年度事業の好事例動画を視聴した感想」について、受講者同士で意見交換を実施。
- その後、基本的な機能を説明した上で、「効果的な活用場面」と、「指導助言時に求められる『問い』や『価値付け』との関連を解説。

### ■ 終盤:グループ協議におけるポイント

- 研修後半のグループ協議に向けて意識すべき「授業検討のポイント」について説明。

見出された効果的場面	指導助言の時の「問い」「価値付け」
学習者用端末の操作への慣れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>いつでも使える、使ってもよい環境なのか？</li> <li>カメラ、共同編集、クラウド保存など多様な機能が使えるのか？</li> <li>使う上でのリテラシーは育っているのか？</li> </ul>
デジタル教科書の機能の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>書き込み、拡大、保存などの機能を理解しているのか？</li> <li>授業で多様な機能を体験する機会は十分確保されているのか？</li> <li>自分なりの（得意な）使い方をつかんでいるのか？</li> </ul>
学習支援ソフトウェアとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援ソフトウェアの機能・特徴を知っているのか？</li> <li>必要なときに使える環境なのか？</li> <li>連携活用によってメリットを感じる場面が仕掛けられているのか？</li> </ul>
今の学習活動の目的を理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>その学習に取り組んでみたくなるような課題設定なのか？</li> <li>この活動でどおり着くゴールが分かっているのか？</li> <li>そのために何をどうしたらいいのかが理解できているのか？</li> </ul>
内容理解につなげる試行錯誤	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えの根拠がデジタル教科書から見出させる課題設定なのか？</li> <li>納得・理解できるだけの十分な活動時間が確保されているのか？</li> <li>個の理解と協働による理解の場が仕掛けられているのか？</li> </ul>

#### ▲効果的場面ごとの指導助言時の「問い」「価値付け」

#### 授業検討のポイント

- 授業では課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる。
- 自分の考えを発表する機会、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立て等を工夫して発表している。

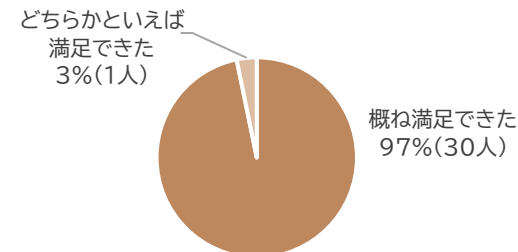
## 取組結果

### ■ 受講者アンケートの結果

研修で満足した内容（自由記述回答から抜粋）

- 教師の役割が「教える」から「学びを支える」へと変化する中で、その手段としてデジタル教科書が有効であることが理解できた。
- デジタル教科書は、子供たちの学びを引き出す重要な学習ツールであると改めて感じた。
- 指導主事としての在り方とあわせて、デジタル教科書の活用意義を改めて考える契機となった。

研修の満足度 [N=31]



- 指導主事の役割とデジタル教科書の意義を関連付けて整理したことで、受講者が自身の役割を踏まえながら、指導助言をするに当たって必要な視点を理解でき、研修全体への満足度の向上に繋がったと考えられる。



ポイント解説

### 「デジタル教科書の活用をなぜ学ぶ必要があるか」を確認

- 現場への働きかけの難しさや、状況に応じた指導助言が求められる指導主事の役割を起点に、指導助言の幅を広げる必要性を確認しました。その手段としてデジタル教科書を位置付けたことで、目的意識を明確にして研修に臨んでもらうことができました。(札幌国際大学 岩崎 教授)



ワークショップ



50分

授業案の検討

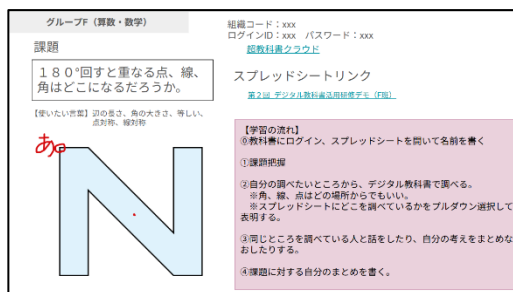
取組のねらい

- 教科特性を踏まえた上で、デジタル教科書の効果的な活用方法を理解することができる。

取組内容

■ 授業案の検討方法

- 国語、算数・数学、理科、社会、外国語の教科ごとに、3～4人のグループを編成。
- サンプル版のデジタル教科書で扱っている中から授業の一場面を想定し、実際に操作しながら、活用する機能や授業展開について検討。
- 検討内容は、オンライン上のワークシートを共同編集しながら整理・記録。



▲「算数・数学」の授業を  
検討したグループのワークシート



▲学習指導要領と照らしながら、  
授業案を検討している様子

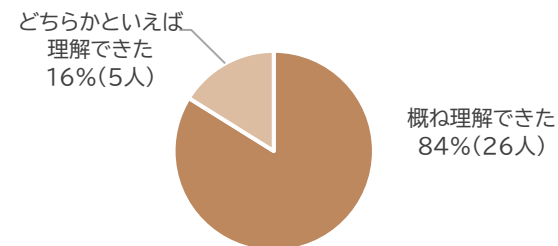
取組結果

■ 受講者アンケートの結果

研修で理解した内容（自由記述回答から抜粋）

- 授業案検討を通じて、実際に操作したことで、デジタル教科書が、記録・保存、動画の活用、情報検索等に優れていることを実感した。
- 授業案検討を通じて、担当教科のデジタル教科書の今まで気付かなかった使用方法や使用意図に気付いた。

研修の理解度 [N=31]



- ▶ 授業案検討を通じて、講義で学んだ内容を実際に操作しながら確かめることで、デジタル教科書の特長や有効性を実感をもって理解・整理することができたと考えられる。



ポイント解説

教科特性を踏まえた授業案検討

- 専門教科ごとにグループ編成したことで、各教科の特性や学習内容を踏まえた、より実践的な検討が行われていました。デジタル教科書はICT活用の文脈で扱われることが多い一方で、各教科において達成したい学習のめあてを起点とし、その達成に向けた1つの手段としてデジタル教科書を位置付けて活用する視点が重要です。(札幌国際大学 岩崎 教授)

## 模擬授業を行い、指導助言のポイントを共有



詳しく  
報告書で読む  
(p.84)

ワークショップ



55分

模擬授業の実施

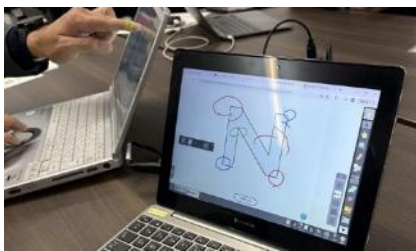
取組のねらい

- ・ 指導助言に必要な視点を獲得し、自信を持てるようになる。

### 取組内容

#### ■ 模擬授業の実施方針

- ・ 形式: ワールドカフェ形式
- ・ 回数: 3セット
- ・ 役割: グループ内で1名が「授業者」、他のメンバーは「学習者」  
※ セットごとに授業者を交代し、基本的に全員が授業者の役割を担う。
- ・ 1セットでの活動:
  - ① 学習者が、セット開始時に、教科を問わず他グループに移動。
  - ② デジタル教科書を実際に操作しながら模擬授業を実施。
  - ③ 模擬授業終了後、授業の進め方やデジタル教科書の活用方法、指導助言の視点について意見交換。



▲ 模擬授業を実施、受講している様子

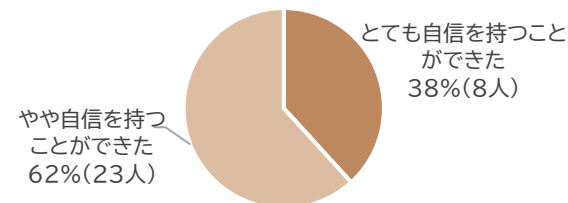
### 取組結果

#### ■ 受講者アンケートの結果

今後の取組の方向性（自由記述回答から抜粋）

- ・ 異なる教科の模擬授業を参観し、多様な視点やアイデアを得ることで、授業づくりに新しい発想を取り入れることができたため、今後の指導助言に活かしたい。
- ・ 受講者主体の研修は学びが多く、自分ごととして捉えることができた。受講者が主体となるような研修を実施していきたい。

指導助言への自信 [N=31]



- グループを超えて、相互に模擬授業を実施し、フィードバックを行うことで、デジタル教科書の効果を実感を持って理解し、指導助言への自信に繋がったと考えられる。また、本研修の形式自体が研修設計に活かせる学びとなった。



ポイント解説

#### 体験型・相互交流型の研修設計

- ・ 受講者全員が授業者の立場を経験するような研修設計とすることで、受講者一人一人が主体的に考え、学びを深める場となったと考えます。  
また、3セット実施したことで、異なる教科や校種におけるデジタル教科書の活用方法に触れる機会を確保でき、指導助言の幅を広げることができました。
- ・ 指導主事は今後、研修を企画・実施する立場でもあるため、デジタル教科書を実際に操作し、模擬授業を行う研修スタイルそのものが、今後の研修設計に活かせる実践的な学びとなりました。  
(熊本県 松下 指導主事)

## 活用段階に沿った指導助言方法の検討



詳しく  
報告書で読む  
(p.92~99)

### 研修前



- 指導主事は、デジタル教科書に関する研修機会が少ないため、教師への指導助言の際に、デジタル教科書の活用という視点に触れられないことがある。



- 全ての受講者が、デジタル教科書に関する指導助言に必要な要素を理解することができた。
- デジタル教科書の操作体験やグループ協議を通じて、約9割の受講者が指導助言への自信を高めた。

### 研修後



## 研修の概要

### 基本情報

#### 研修のねらい

- ✓ 指導主事自身がデジタル教科書の活用イメージを持てるよう、デジタル教科書を実際に操作する時間を設定する。
- ✓ 具体的な指導助言に繋がれるよう、教師のデジタル教科書の活用段階別に必要な指導助言の方法を検討する。

#### 対象者

教員

指導主事

—  
教育事務所7名  
市町村教育委員会指導主事35名

#### 実施方式

参集

オンライン

ハイブリッド

### 研修の流れ

#### レクチャー



35分

#### 有識者の講義

全体

- 鹿児島県が教育方針として掲げている「学習者主体の授業」の推進に向けて、デジタル教科書の利点や具体的な活用事例、教師への指導助言で必要なポイントを解説。

#### 【準備物】

- ・ 講義資料

➡ 詳細は p.35

#### ワークショップ



15分

#### 個人演習

個別

- デジタル教科書のサンプル版を操作し、「効果的だと感じた機能」「活用できそうな授業場面」「活用する上で課題となりそうな点」をオンライン上のワークシートに受講者が整理。

#### 【準備物】

- ・ デジタル教科書 (サンプル版)
- ・ 操作用端末
- ・ オンライン上のワークシート

➡ 詳細は p.36

#### ワークショップ



50分

#### グループ協議

グループ

- グループごとに、「学習者主体の授業」に向けて活用できそうな機能や、具体的な指導助言の方法について意見交換。
- グループ協議を踏まえて、教師のデジタル教科書の活用段階に沿った指導助言の具体例について有識者から紹介。

#### 【準備物】

- ・ オンライン上のワークシート

➡ 詳細は p.37



レクチャー



35分

有識者の講義

取組のねらい

- デジタル教科書の活用の意義を理解することができる。

取組内容

取組結果

### ■ 主な講義内容

- 鹿児島県の教育方針である「学習者主体の授業」にデジタル教科書が寄与することを、**事例動画**も交えながら解説。
- 事例動画では、生徒が個別のペースで様々な学び方を展開している様子(=「学習者主体の授業」の一例)を紹介。併せて、教師が児童生徒の学びの様子を見取り、学級全体に良い学び方の例や留意点を共有することが重要であることを強調。
- 教師への指導助言の具体例について、「デジタル教科書活用の3Step」(右図)に紐づけながら解説。

**Step1 あらゆる教科でとにかく使ってみる**  
→デジタル教科書を使うメリットを伝える

**Step2 効果的な活用方法を深める**  
→様々な授業場面で使えることを示す

**Step3 新たな学び方を追求する**  
→子供たちが学び方を自己調整するためにデジタル教科書が役立つことを示す



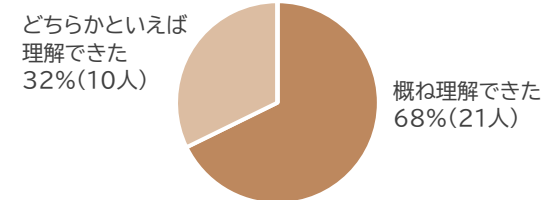
- ▲デジタル教科書活用の3Step
- ◀上図の各Stepに向けて必要な指導助言を紹介

### ■ 受講者アンケートの結果

研修で理解した内容(自由記述回答から抜粋)

- 教師も児童生徒も、指導主事も一緒に学びながらデジタル教科書の活用を進めていけばよいと分かった。
- デジタル教科書を無理にでも使おうとするのではなく、子供たちと一緒に試してみながら、使い方を模索していけばいいということが分かった。
- 指導助言においては単なる助言にとどまらず、「相手の思いや状況を丁寧にくみ取りながら、対話的に進めていく姿勢」が重要であることを改めて実感した。

研修の理解度 [N=31]



- ▶ 本研修の理解度を問う質問では、全ての受講者から肯定的な回答を得ており、デジタル教科書に関する指導助言に必要な要素を理解することができたと考えられる。



ポイント解説

### 教師の活用段階に沿った指導助言の例を提示

- 指導主事は、教師の活用状況や考えに寄り添いながら指導助言を行う必要があります。講義で「デジタル教科書活用の3Step」と、各Stepに至るために必要な指導助言の例を示すことで、受講者が自身の担当する学校の活用状況を想起しながら、具体的かつ実現性の高い指導助言の検討に繋げることができます。(東京家政大学 太田 教授)



ワークショップ



15分

個人演習

取組のねらい

- デジタル教科書の機能とその活用事例を理解することができる。

取組内容

■ 個人演習の進め方

- デジタル教科書のサンプル版を操作し、「効果的だと感じた機能」「活用できそうな授業場面」「活用する上で課題となりそうな点」をオンライン上のワークシートに受講者が整理。
- 操作するデジタル教科書の教科や校種は問わない。
- 操作して気づいたことや疑問を受講者同士で話し合うことも可能。



▲個人演習を進める様子

効果的だと感じた機能

- 好きなタイミングで必要な箇所に絞って音声を確認
- 教科書の挿絵を切り貼りして、ワークシートの作成を省力化

活用できそうな授業場面

- 友達の考えを転記でき、意見内容の集約が容易
- 個別で課題解決を行う時間に活用

活用する上で課題となりそうな点

- 教師が児童生徒の学習の状況を十分に見取り支援すること

▲個人演習で実際に作成されたワークシートの例



ポイント解説

デジタル教科書を実際に操作し、授業での活用イメージを具体化

- 指導主事は「学習者主体の授業」の必要性を理解する一方で、その実現を支えるデジタル教科書の活用経験が少なく、教師の活用を促す指導助言に繋がられていない場合が多いです。
- そのため、実際にデジタル教科書を操作することで、活用できる授業場面に関してイメージが深まり、具体的な指導助言に繋げることができます。(鹿児島県 寺地 指導主事)

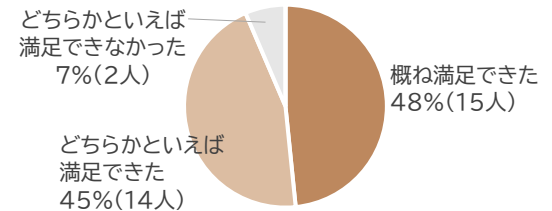
取組結果

■ 受講者アンケートの結果

研修で満足した内容(自由記述回答から抜粋)

- 実際にデジタル教科書を操作する演習を経たため、具体的な授業場面について検討することができ満足した。
- デジタル教科書に触ってみた感想等も意見交換することができた。
- オンラインで参加していたが、デジタル教科書のサンプル版を操作し、オンラインのワークシートを活用した意見集約をできたため、一方的な研修ではなく双方向性があり、対面と遜色ない研修ができた。

研修の満足度 [N=31]



- 本研修の満足度を問う質問では、9割以上の受講者から肯定的な回答を得ており、デジタル教科書を操作して受講者同士で意見交換したことで、受講者の満足につながったと考えられる。

## 活用段階に沿った指導助言方法の検討



詳しく  
報告書で読む  
(p.95~96)

ワークショップ



50分

グループ協議

### 取組のねらい

- デジタル教科書の活用と「学習者主体の授業」を関連付けた指導助言ができるようになる。
- デジタル教科書を活用した授業に関する指導助言への意欲を高める。

### 取組内容

#### ■ グループの編成方法

- 参集とオンラインの参加者でグループを分け、それぞれ校種別に3~5名程度で編成。

#### ■ グループ協議の流れ

- グループごとに、個人演習でまとめた効果的な機能や授業場面を基に、具体的な指導助言の方法を意見交換。
- オンライン上のワークシートに協議内容をまとめ、他グループの内容も参照可能な形とする。
- 各グループの協議内容を全体で発表。講評として、有識者から具体的な指導助言の事例を紹介。

#### 効果的だと感じた機能・活用できそうな授業場面

- 従来の教科書では提示できなかった動画や音声・情報等を、子供たちの課題解決に活かし、個に応じた学びに繋げることができる。
- 学習の履歴やデジタル化した成果物を残すことができ、既習事項等を学びに活かすことができる。児童生徒が成長を実感し、学習意欲を高めることに繋がる。

#### 具体的な指導助言の方法

- Step1→Step2→Step3と学校の状況に応じた指導助言を行う。まずは各校の活用状況に関する調査を実施。
- Step1の学校には、活用の習慣化に繋げるため、「まずは子供と一緒に使ってみましょう」と促す。
- 「デジタル放任授業」とならないように、教師が児童生徒の様子を十分に見取り、見取ったことをもとに指導。

▲グループ協議で実際に作成されたワークシートの例



ポイント解説

#### 具体的な機能や活用場面への理解をもとに指導助言への自信を醸成

- 学校側がデジタル教科書に関する指導助言を必要としていないケースは多く見られます。
- 「具体的な機能や活用場面を想定した指導助言」を検討することで、指導主事は「教師の授業の状態」を起点に指導することへの自信を持ちます。その結果、学校からの要請がなくても、自然に先回りして指導助言することが可能になります。(東京家政大学 太田 教授)

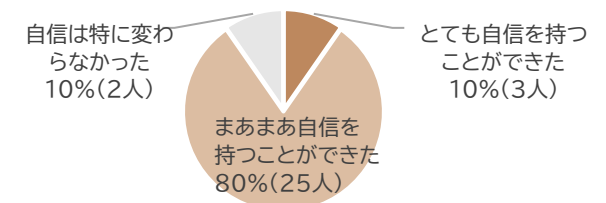
### 取組結果

#### ■ 受講者アンケートの結果

今後指導助言したい内容(自由記述回答から抜粋)

- 3つのStepとともに具体的な活用例を示し、教師が自ら活用したいと思えるようにしたい。
- 導入当初は操作面や接続環境に課題が生じやすいことも念頭に置き、「できるところから無理なく取り入れていくこと」「小さな成功体験を積み重ねていくこと」の大切さを伝えていきたい。
- まずは子供と一緒に使い、習慣化を図る。次に活用方法を示し、学習方法の選択を子供に委ねることの大切さを伝えていきたい。

指導助言への自信 [N=31]



- 指導助言への自信を問う質問では、約9割の受講者から肯定的な回答を得ており、具体的な指導助言方法の検討が自信向上につながったと考えられる。

## 先進的な授業づくりのねらいや工夫に迫る



詳しく  
報告書で読む  
(p.100~107)

### 研修前



- デジタル教科書を活用した授業づくりについて、具体的なイメージが描けていない教員が見られる。



- 参加した全ての教員が、デジタル教科書を活用した授業づくりのポイントを理解することができた。
- 実践発表や有識者の講義を通して、約9割の教員が活用への意欲を高めた。

### 研修後



## 研修の概要

### 基本情報



- 参加者が授業での活用イメージを具体的に描くことができるよう、教員が実際に使っているワークシートや、授業中の写真や映像を用いながら実践事例を紹介する。
- 有識者の講義の中では、参加者の理解を引き出せるよう、県の教育方針として掲げている「学習者主体の授業」に紐づけながら活用の意義を解説する。

対象者

教員  
指導主事

※県の「教育の情報化」フォーラムの中で一般参加者も含む不特定多数を対象に実施したため、当日の参加人数は不明。

実施方式

参集

オンライン

ハイブリッド

### 研修の流れ

レクチャー



15分

実践発表

全体

- 小学校外国語科におけるデジタル教科書の活用事例について、先進的な活用を行う県内の教員から実践発表を実施。
- 授業の様子を撮影した動画やワークシートも用いながら、授業づくりのねらいや工夫点も紹介。

【準備物】

- 講義資料

➡ 詳細は p.39

レクチャー



25分

有識者の講義

全体

- 有識者が実践発表のポイントとして、デジタル教科書の活用の意義や「学習者主体の授業」と関連した活用の在り方について解説。実践した教員の試行錯誤の過程についても深掘り。
- 「デジタル教科書活用の3Step」を踏まえながら、他の活用事例も紹介。併せて、子供たちの学びを見取る必要性についても解説。

【準備物】

- 講義資料

➡ 詳細は p.40

リフレクション



10分

質疑応答

全体

- 教員による実践発表や有識者の講義に対する質疑応答。

【準備物】

- オンライン上のワークシート

# 先進的な授業づくりのねらいや工夫に迫る



詳しく  
報告書で読む  
(p.102)

レクチャー

15分

実践発表

取組のねらい

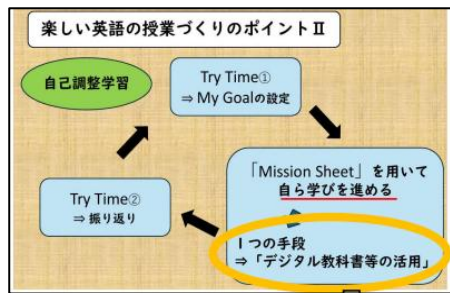
- ・ 教員が「学習者主体の授業」を踏まえたデジタル教科書活用のイメージをもつことができる。

## 取組内容

## 取組結果

### ■ 教員による実践発表の流れ

- ・ 実践発表を行った教員：薩摩川内市立平佐西小学校 安部菜穂子先生
- ・ 導入として、子供たちが授業中にデジタル教科書を活用しながら学んでいる様子を動画で提示。
- ・ 「外国語の授業づくりで大切にしていること」として、単元目標を子供たちが様々な想いや考えを伝えられるものになるよう工夫し、単元目標から逆算して各授業の内容を検討することを提示。
- ・ 上記の授業においては、単元目標に向けて子供たちが自走できるための仕掛けづくりが重要である。そのための自己調整学習のポイント(下図①)を、デジタル教科書の活用事例(下図②)と併せて説明。



図① 自己調整学習の進め方を説明



図② 子供たちが自分で学びを進めるための1つの手段として、デジタル教科書の活用例を紹介

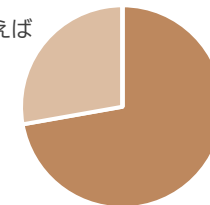
### ■ 受講者アンケートの結果

研修で理解した内容(自由記述回答から抜粋)

- ・ ICT端末を使うことが目的ではなく、手立て(手段)としてどのように活用することができるか、具体的な取組を知る機会となった。
- ・ 単元計画の考え方や、単元目標の設定と振返りの方法等を学び、デジタル教科書はひとつの学習ツールであることやその特性をうまく利用することを学んだ。
- ・ ICTの活用には、アナログの代替的な役割によって時間を節約する側面と、学びの質的な変容を目指す側面があることを理解した。

研修の理解度 [N=18] ※受講者のうち教員を対象

どちらかといえば  
理解できた  
28%(5人)



概ね理解できた  
72%(13人)

- 本研修の理解度を問う質問では、全ての受講者から肯定的な回答を得ており、デジタル教科書を活用した授業づくりのポイントを理解することができたと考えられる。



### 単なる活用方法だけでなく、授業づくりのねらいについても紹介

- ・ 授業におけるデジタル教科書の活用を検討する際は、単元においてどのような学びを目指し、教師がどのように子供たちの学びを見取るかも併せて検討する必要があります。
- ・ 実践発表では、単にデジタル教科書等の活用方法だけでなく、単元計画の組み立て方の工夫や、子供たちが自身で学びを進めるための仕掛けも紹介することで、受講者が授業検討時に意識すべき点が明確になります。(東京家政大学 太田 教授)

# 先進的な授業づくりのねらいや工夫に迫る



詳しく  
報告書で読む  
(p.103~104)

レクチャー



25分

有識者の講義

## 取組のねらい

- デジタル教科書の有効性を理解し、授業における活用の意欲を高めることができる。

## 取組内容

### ■ 主な講義内容

- 「デジタル教科書活用の3Step」を紹介し、各Stepに紐づけて活用事例を説明。Step1の事例として音読練習・リスニングでの活用、Step2の事例として本文の内容理解にデジタル教科書を活用した事例を紹介。
- 県内の教員による実践(p.5)をStep3(新たな学び方を追究する)に位置づけ、子供たちが目標達成に向け学び方を自分で選択すること(自己調整学習)が重要であることを説明。
- 自己調整学習では、教師が子供たちの学びの様子を見取り、学級全体で良い学び方や留意点を共有する必要がある。そのためのツールとして、教員が使用していた「Mission Sheet」(下図)が鍵となることを説明。学びの取組状況が可視化されることで、子供たち自身が「ここまで自分で取り組むことができた」と自己肯定感を高めることに繋がることを解説。



▲デジタル教科書活用の3Step(再掲)

▼教員が使用していたMission Sheet

Grade 5 Class		No.	Name															
<p>1 can ...を使って、自分ができることを友達3人と先生に伝える。</p> <table border="1"> <tr><th>名前</th><th>前</th><th>できないこと</th></tr> <tr><td>1</td><td></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> <tr><td>先生</td><td></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> </table>				名前	前	できないこと	1		<input checked="" type="checkbox"/>	2		<input checked="" type="checkbox"/>	3		<input checked="" type="checkbox"/>	先生		<input checked="" type="checkbox"/>
名前	前	できないこと																
1		<input checked="" type="checkbox"/>																
2		<input checked="" type="checkbox"/>																
3		<input checked="" type="checkbox"/>																
先生		<input checked="" type="checkbox"/>																
<p>2 [play+スポーツ]の動作(3種類)を絵を見て言うことができる。</p> <table border="1"> <tr><th>友達</th><th>先生</th></tr> <tr><td><input checked="" type="checkbox"/></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> </table>				友達	先生	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>											
友達	先生																	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>																	
<p>3 [ride, fastシリーズ]の動作(4種類)を絵を見て言うことができる。</p> <table border="1"> <tr><th>友達</th><th>先生</th></tr> <tr><td><input checked="" type="checkbox"/></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> </table>				友達	先生	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>											
友達	先生																	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>																	
<p>4 [play+楽器]の動作(3種類)を絵を見て言うことができる。</p> <table border="1"> <tr><th>友達</th><th>先生</th></tr> <tr><td><input checked="" type="checkbox"/></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> </table>				友達	先生	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>											
友達	先生																	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>																	
<p>5 [ride, fastシリーズ]の動作(4種類)を絵を見て言うことができる。</p> <table border="1"> <tr><th>友達</th><th>先生</th></tr> <tr><td><input checked="" type="checkbox"/></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> </table>				友達	先生	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>											
友達	先生																	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>																	
<p>6 [jumpシリーズ, run, swim]の動作(4種類)を絵を見て言うことができる。</p> <table border="1"> <tr><th>友達</th><th>先生</th></tr> <tr><td><input checked="" type="checkbox"/></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> </table>				友達	先生	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>											
友達	先生																	
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>																	
<p>Can you swim?を使って、友達3人と先生にインタビューする。</p> <table border="1"> <tr><th>名前</th><th>前</th><th>can / can't</th></tr> <tr><td>1</td><td></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> <tr><td>先生</td><td></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> </table>				名前	前	can / can't	1		<input checked="" type="checkbox"/>	2		<input checked="" type="checkbox"/>	3		<input checked="" type="checkbox"/>	先生		<input checked="" type="checkbox"/>
名前	前	can / can't																
1		<input checked="" type="checkbox"/>																
2		<input checked="" type="checkbox"/>																
3		<input checked="" type="checkbox"/>																
先生		<input checked="" type="checkbox"/>																
<p>Can you ...?を使って、友達3人と先生にインタビューする。</p> <table border="1"> <tr><th>名前</th><th>前</th><th>can / can't</th></tr> <tr><td>1</td><td></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> <tr><td>先生</td><td></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td></tr> </table>				名前	前	can / can't	1		<input checked="" type="checkbox"/>	2		<input checked="" type="checkbox"/>	3		<input checked="" type="checkbox"/>	先生		<input checked="" type="checkbox"/>
名前	前	can / can't																
1		<input checked="" type="checkbox"/>																
2		<input checked="" type="checkbox"/>																
3		<input checked="" type="checkbox"/>																
先生		<input checked="" type="checkbox"/>																

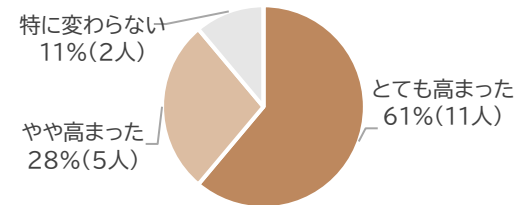
## 取組結果

### ■ 受講者アンケートの結果

研修後に取り組みたい内容(自由記述回答から抜粋)

- デジタル教科書を使用して音読練習をさせたい。
- 映像を使用し、視覚的な理解を促したい。
- 自己調整学習の選択肢の一つとしてデジタル教科書を活用していきたい。
- 生徒一人ひとりが学ぶ意欲を向上させるように、デジタル教科書を活用したい。
- 教頭として授業者に、学習者用デジタル教科書の使用目的やその価値について指導していきたい。

活用への意欲 [N=18] ※受講者のうち教員を対象



- 活用への意欲を問う質問では、約9割の教員から肯定的な回答を得ており、具体的な実践例や授業づくりのポイント解説が意欲向上につながったと考えられる。



ポイント解説

### 実際のワークシートを紹介し、受講者の意欲を喚起

- 教員が実際に使用しているワークシートを参加者に配布し、子供たちの学びを見取るためのツールとして紹介することで、授業での活用イメージをより具体化することができ、先進的な事例であっても、「自分の授業にも取り入れてみよう」と教員の意欲に繋がやすくなります。(鹿児島県 寺地 指導主事)

# Appendix

---

## 関連コンテンツ

本書のほかにも、令和7年度「学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業」の成果は、以下にとりまとめています。あわせてご参照ください。

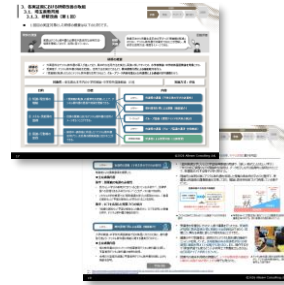
### 成果報告書

#### 【デジタル教科書の活用に関する研修】

本事業に参加した各県の研修内容を詳述した報告書。各県が実施した2回の研修に関する研修計画の詳細や検討過程、研修効果の検証に関する諸情報(受講者へのアンケートの結果等)を掲載。



[https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761_3.pdf)



#### 【デジタル教科書を活用した授業改善】

本事業の実証研究校での授業改善の取組を詳述した報告書。外国語／算数・数学／国語／理科／社会の5教科について、それぞれ2回ずつ授業実践に取り組み、その結果を掲載。



[https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761_2.pdf)

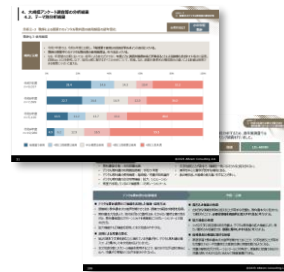


#### 【デジタル教科書に関する大規模アンケート調査】

全国の小中学校の教師・児童生徒を対象にしたデジタル教科書に関するアンケート・ヒアリング調査の結果をまとめた報告書。授業改善の効果や紙の教科書との比較、研修を受けた経験と活用状況との関係などの分析結果を掲載。



[https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761_1.pdf)



### 動画

#### 【デジタル教科書を活用した実践事例を知る】

デジタル教科書等を活用した授業改善の実践事例を紹介する8分程度の動画。算数・数学／国語編と理科／社会編の2本。具体的な授業の様子を有識者の解説も交えて紹介し、授業者・児童生徒のインタビューも収録。



[https://youtu.be/hzE\\_cYZQNV4](https://youtu.be/hzE_cYZQNV4)

(算数・数学／国語)



<https://youtu.be/Kj1TR7Znmjk>

(理科／社会)

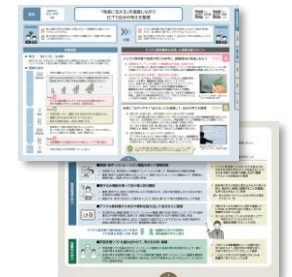


### 授業改善事例集

本事業の実証研究校での授業改善の取組について、1教科1ページでコンパクトに紹介する事例集。外国語／算数・数学／国語／理科／社会の1校ずつ、授業の流れとデジタル教科書等を活用したポイントを紹介。加えて、5教科の間で共通する「デジタル教科書活用のポイント」も整理。



[https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761\\_4.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761_4.pdf)



## 有識者会議委員・実証県一覧

(敬称略)

役割	氏名	所属・職名※	担当の実証県
主査	中川 一史	放送大学 教授	—
副査	小林 祐紀	放送大学 准教授	埼玉県
実証研究方針に係る指導助言	齋藤 嘉則	東京学芸大学 教授	埼玉県 (外国語の観点からの指導助言)
	中橋 雄	日本大学 教授	—
実証県での研修に係る指導助言	岩崎 有朋	札幌国際大学 教授	熊本県
	太田 洋	東京家政大学 教授	鹿児島県
	岡部 恭幸	神戸大学 教授	福井県
	佐藤 幸江	放送大学 客員教授	奈良県

※ 有識者会議委員の所属・職名は令和8年3月現在

事業委託者

---

**文部科学省初等中等教育局**

〒100-8959 東京都千代田区霞が関三丁目2番2号

事業受託者（制作）

---

**アビームコンサルティング株式会社**

〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目2番1号